

# 関西大学ピア・コミュニティ 2018 年度報告書



関西大学

## 「2018年度報告書の発刊にあたって」

関西大学学生センター所長

岡本 哲和

本学の「ピア・コミュニティ」活動は2017年に10年目という節目を迎えるが、本年度は新たな気持ちをもって11年目を迎えました。その新たな年度に相応しく、公益財団法人 大学基準協会による機関別認証評価では、正課外活動として取り組んでいるピア・サポート活動が、教育研究支援、学生生活支援、大学広報支援の分野において、多くの学生が携わっている点で高い評価を得ることが出来ました。また、学生同士の助け合いを通じて社会性や主体性を備えた自律的に行動できる学生の育成を目的とし、ピア・サポートに関わるさまざまな組織・学生間の情報共有・連携強化に取り組んでいる点においても高い評価を頂き、本学全体の評価に対して大きく貢献することが出来ました。ピア・サポート、関係部署及びご協力いただいた方々に感謝を申し上げるとともに、改めて本活動が21世紀にふさわしい新しい学生文化の形成に邁進していると手応えを感じている次第です。

振り返れば2018年は近年稀に見る多くの自然災害が発生した年でもあり、中でも6月の大阪北部を中心とした地震については本学も大きな影響を受けました。自然の驚異に成す術もなく、既存の社会システムでは対処が困難な事態を体感しました。そのような状況で人々の様々な思いやりと、助け譲り合う精神によってたとえ一時でも多くに人が救われた気持ちになったことと思われます。改めて人間社会においてのつながりは欠かせない存在であると実感すると共に、各々が社会のコミュニティにどのような形で貢献できるのかが試されていると痛感しています。学生を取り巻く社会環境は急速に変化しています。その中で人ととの関わりをつくり出すために「何をすべきなのか」について、学生と共に見つめ直す必要性を再認識しています。

ピア活動の原点となる「人は実際に人を支援する中で成長し、誰もが他者をサポートできる存在であり、サポートを受ける存在である」という考え方をもとに、これからも学生同士の学び合いによる成長が全学的なサポートによって達成されることを願い、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

(政策創造学部 教授)

## 目 次

<b>1 ピア・サポートの育成</b>	
<b>1.1 ピア・サポートの育成</b>	..... 1
<b>1.2 シニア・サポートの活動</b>	..... 3
<b>1.3 関西大学ピア・サポート研修</b>	..... 5
<b>1.4 スキルアップ講座</b>	..... 8
<b>1.5 効果測定</b>	..... 14
<b>2 ピア・コミュニティの活動報告</b>	
<b>2.1 ピア・コミュニティ活動のあゆみ</b>	..... 23
<b>2.2 ピア・コミュニティの活動</b>	..... 26
<b>2.2.1 ピア・コミュニティ運営本部</b>	..... 26
<b>2.2.2 國際コミュニティ “KUブリッジ”</b>	..... 34
<b>2.2.3 ピア・スポーツコミュニティ (P S C)</b>	..... 51
<b>2.2.4 KUサポートプランナー (K U S P)</b>	..... 52
<b>2.2.5 KUコアラ</b>	..... 56
<b>2.2.6 KUサポートーズ</b>	..... 61
<b>2.2.7 ぴあかんず</b>	..... 63
<b>2.2.8 関西大学 I T ピア・コミュニティ “i. com”</b>	..... 64
<b>2.2.9 関西大学学生 P R チーム S U G a O</b>	..... 65
<b>2.3 ピア・サポートからのメッセージ</b>	..... 66
<b>2.4 支援部署職員からのメッセージ</b>	..... 72
<b>3 学生支援室の活動報告</b>	
<b>3.1 学生支援室の役割と主な活動</b>	..... 75
<b>3.2 新規 T A 研修</b>	..... 76
<b>3.3 学生支援室 T A からのメッセージ</b>	..... 78

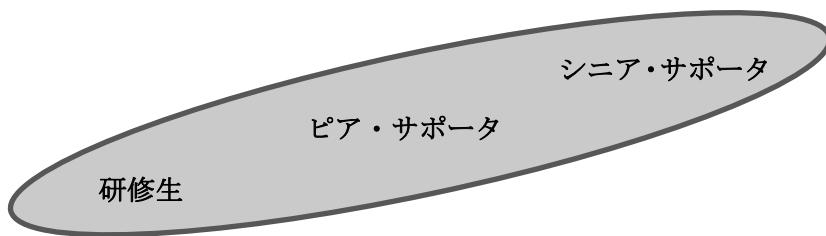
# **1 ピア・サポートの育成**

## 1.1 ピア・サポートの育成

2015年度に終了した正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」に替わって、ピア・サポート養成を行うための研修と日常の活動でこれまでの質を維持できるようにしている。例年100名前後の学生がピア・コミュニティに所属し、ピア・サポート活動の実践を行ってきたが、本学のピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくために、これまでの学生センターやピア・コミュニティを支援する教職員（支援部署を含む。）、TAを中心とした取り組みに加え、学生自身によるピア・サポート活動の継承を促進するための仕組みとなる、シニア・サポートを設けている。

ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ、およびピア・サポート、シニア・サポートの認定条件は次のとおりである。

### 【ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ】



	研修生	ピア・サポート	シニア・サポート
基礎資格	学部生／大学院生	学部生／大学院生	学部生／大学院生
保有するスキル・知識等	ピア・サポートの認定条件を満たしておらず、単独でピア・サポート活動を行うことはできない者。	ピア・サポートの認定条件を満たし、ピア・サポート活動を行うために必要なスキル・知識等を持つ者。	シニア・サポートの認定条件を満たし、ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を持つ者。
活動の範囲	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動、および学生によるピア・コミュニティの継承に関すること。

## 【ピア・サポートおよびシニア・サポート認定条件】

### ピア・サポート認定条件

- ・ピア・サポートの認定条件は、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了とする。

### シニア・サポート認定条件

- ・シニア・サポートの認定条件は、ピア・サポートとしての1年以上の活動と、スキルアップ講座5つ以上の受講修了とする。ただし、経過措置として正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」の単位修得者は1年以上のピア・サポートとしての活動とスキルアップ講座3つ以上の受講修了とする。

特例措置：各コミュニティの代表・副代表、およびその経験者について、「ピア・サポートとしての活動歴（1年以上）と、スキルアップ講座3つ以上の受講修了」をもって、シニア・サポートとして認定する。

なお、この者が「関西大学ピア・コミュニティ入門」の単位を修得している場合、「ピア・サポートとしての活動歴（1年以上）と、スキルアップ講座2つ以上の受講修了」をもって、シニア・サポートとして認定する。

シニア・サポートの認定条件について、シニア・サポートの活動を安定的に行い、次年度以降に引き継いでいけるようにするためにには、数を増やすことが重要であり、「学んだ知識やスキルをもとに他者を支援する活動」がピア・サポート活動であることを斟酌し、一時的な措置ではあるが、今年度も継続して認定条件を緩和する特例措置を行った。

ボランティア活動支援グループとしても、シニア・サポートおよびスキルアップ講座について『マネジメントBOOK』（ピア・サポート活動に係る諸手続きをまとめた冊子）による周知や、年間1つはスキルアップ講座の受講を奨励するアナウンスを行っているが、学生の関心・意欲を十分に喚起するには至っていない状況である。

認定条件を満たしているにもかかわらず、シニア・サポートの登録に及ばなかった学生が少なからずいる理由には、所属するコミュニティの活動に多忙であったり、就職活動の早期化などが考えられる。一方で、関心をもっているが認定条件を満たすことができなかつた学生も存在し、学生の前向きな気持ちを汲み取るような対応も考えていきたい。

本学においてピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくためには、シニア・サポートは欠かすことのできない重要な存在であり、次年度以降に残るシニア・サポートが中心となって、経験やノウハウを次の世代へと引き継いでいってくれることを期待する。

## 1.2 シニア・サポートの活動

2014年度新設した「シニア・サポート」について、2018年度は、新たに3年次4名の登録があり、過年度登録の4年次1名と合わせて、合計5名で活動を行った。

春学期は、4年次1名のみで、就職活動もある中シニア・サポートとしての役割を担うことは難しい状況であったが、秋学期に入って新たに4名の登録があり、シニア・サポートミーティングを重ね、2月には「2018年度 ピア・サポート交流会」を開催することができた。

以下に、今年度のシニア・サポートの活動を示す。

◆企画名	<u>2018年度 ピア・サポート交流会</u>
日 程	<u>2019年2月13日(水)</u>
場 所	<u>第2学舎2号館 C301教室</u>
参加者数	<u>30名(ピア・サポート19名、学生支援室TA1名、教職員3名、県立広島大学職員2名、神戸学院大学 学生3名、職員1名、桜美林大学 職員1名)</u>

### 目的

他大学のピア・サポート活動の内容を知り、同時に他大学のピア・サポートと交流することで、自らの活動の在り方を再考し、新たな気づきや発見を得ることで、今後の円滑なピア・サポート活動につなげる。

### 内 容

第1部 10:00~11:10 オープニング(交流会の趣旨説明)、開会挨拶 参加大学の活動紹介
11:10~11:40 アイスブレイク「10筆お絵描き」 (グループのメンバーで交代しながら白紙用紙に1筆ずつ書き足し、10筆でお題の絵を完成させるゲーム)
11:50~12:50 昼食会兼懇親会
第2部 13:00~14:50 ワークショップ「よりよいピア・サポートを考えよう」
第3部 15:00~16:40 ワークショップ「組織のマネジメントを考えよう」 16:50~17:00 エンディング

### 効 果

・活動紹介のプログラムでは、各コミュニティや他大学のピア・サポート団体の活動や課題を共有する機会を提供でき、参加者が今後の活動に活かせる「気づき」を得る機会となった。
・アイスブレイクでは大いに盛り上がり、後の昼食会や第2部をよい雰囲気で実施できた。
・菓子や飲み物を用意したため、それを配布することを機に、議論が活性化した。
・他大学生と交流する機会となり、新たな出会いの場を提供できた。
・本企画は、他大学を巻き込んでの企画であり、外部への広報、やり取りといったノウハウを獲得する機会となった。

## 改善点

- 企画の実施時期がよくなかった。本企画は、立ち上がりが遅く、春休み期間中の実施となってしまった。長期休業中の実施は、他大学からの参加者の減少につながったと考える。また、当日もインフルエンザなどによる欠席者が多く発生した。今後、同様の企画を実施する際は、より気候のよい秋に実施すべきと考えている。
- ピア・サポートをもっと企画に巻き込むべきだった。本企画は、「他大学交流会を実施したいがノウハウがない」というピア・サポートの声にこたえる形で実施した企画である。そのため、もっとピア・サポートに対してもノウハウを伝える機会を設けるべきだったと考える。
- 他大学への広報をもっと検討すべきだった。今回は、各大学に対して資料を送付する形をとったが、反応は芳しくなかった。そのため、SNSなど新たな広報手段を検討すべきと考える。

## 感想

- コミュニティや大学の枠を超えた交流の機会を提供できたことは嬉しく思う。様々な立場の人の意見を聞くことを通じて、各コミュニティが活性化すれば、活動も継承されていくと考える。
- 昨年度実施した、「ピア・コミュニティ 10 周年記念事業」と続けて、他大学に参加いただく企画を開催できた。今後も、継続的にこのような機会を設けることで、新たな出会いと気づきを得てほしいと思う。
- シニア・サポートとして、活動の継承につながる企画を継続的に、前例にとらわれず実施してほしいと思う。

今年度のシニア・サポートの特徴として、2017 年度に開催した「ピア・コミュニティ創設 10 周年記念事業」の企画の中心メンバーであったことが挙げられる。自身が経験した他大学交流の良さや、企画の難しさを伝えるため、また、ピア・サポートたちの「これからも他大学との交流を続けていきたい」という想いを汲み、今回の企画を実施してくれた。

各コミュニティの枠にとどまらず、大学の枠を超えて交流するということは、様々な意見に触れ、多角的な視点を持つことにつながると考えられることから、大学としても非常に大切な機会であると捉えている。シニア・サポートが自覚を持ち、実施してくれた次世代につなぐ活動が、受け継がれていくよう今後も見守っていきたい。

一方、「ピア・サポートたちのシニア・サポートに対する興味・関心や認知度が低い」「シニア・サポートの数が少なく、活発な活動を行うことが難しい」等の課題は継続しており、引き続き取り組んでいきたい。

次年度には 4 名が残留するが、就職活動等により少なくとも 2019 年度春学期中の活発な活動は難しいことが予想される。今後新たにシニア・サポートとなるサポートには、これまでの活動記録等を参考に経緯を確認し、シニア・サポートについて理解を深めてもらう等、できることを行いつつ、さらに活動内容の充実を図っていきたい。

### 1.3 関西大学ピア・サポート研修

1 実施目的 ピア・サポータとしての自覚を促すとともに、ピア・サポート活動をするために必要な知識・スキル等を身につけてもらうことを目的とする。

2 対象 ピア・コミュニティ研修生

3 実施日時・実施場所・受講者数

	内容	実施日時	実施場所	受講者数
①	ピア・サポートって何だろう？	5月18日（金）18：00～19：30	第2学舎2号館 C204教室	26名
		6月22日（金）16：20～17：50	東体育館 多目的ルーム	3名
		9月6日（木）9：00～10：30	第2学舎2号館 C401教室	5名
		12月17日（月）10：40～12：10	第2学舎2号館 C301教室	5名
②	自己理解	7月3日（火）18：00～19：30	東体育館 多目的ルーム	10名
		9月6日（木）10：40～12：10	第2学舎2号館 C401教室	9名
		12月20日（木）16：20～17：50	東体育館 多目的ルーム	5名
③	コミュニケーション	7月3日（火）16：20～17：50	東体育館 多目的ルーム	10名
		9月6日（木）13：00～14：30	第2学舎2号館 C401教室	7名
		12月19日（水）14：40～16：10	第2学舎2号館 C201教室	3名
④	プランニング	6月21日（木）16：20～17：50	東体育館 多目的ルーム	10名
		9月6日（木）14：40～16：10	第2学舎2号館 C401教室	5名
		12月20日（木）14：40～16：10	東体育館 多目的ルーム	3名

※①～④それぞれについて、いずれかの日程で受講。

※①～④すべてを受講することにより、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了となる。

※5月18日「ピア・サポートって何だろう？」の受講者数については、支援部署職員・学生支援室TAも含む。

#### 4 概 要

本研修は、学生支援室 TA6 名（木村、佐藤、竹本、並木、宮原、保田）とともに考案・実施したものである。

①については、一般学生が現在のピア・コミュニティ及びその活動について身近なものでないため、ピア・サポート活動の概要について知つもらう機会として一般学生も受講対象とし、内容についても、ピア・サポートからのコミュニティ紹介の時間を設けるなどの工夫を行っている。

②③④については、これまでの研修実績より理解しやすく、効果的にサポートとしての自覚・スキルを涵養するための内容に心がけている。

	内容	所要時間	実施担当
①	ピア・サポートって何だろう？	90 分	5月 18 日：山本 6月 22 日：山本 9月 6 日：山本 12月 17 日：山本
②	自己理解		7月 3 日：並木 9月 6 日：木村 12月 20 日：宮原
③	コミュニケーション		7月 3 日：保田 9月 6 日：保田 12月 19 日：竹本
④	プランニング		6月 21 日：佐藤 9月 6 日：佐藤 12月 20 日：佐藤

①では、まず各自の身近な「サポート」に関わる経験を振り返り、サポートをしたりされたりすることのあたたかさや、サポートをすることで自分も何らかの影響や刺激を受けていること等を認識してもらった。続いて、ピア・サポートとしての必要な知識でありスキルをつけるための素養として、ピア・サポートの歴史や、ピア・サポートとは何かということ、関西大学にピア・サポートを導入した背景や、関西大学におけるこれまでの取り組み、またピア・サポート活動での注意点などを説明した。その後、ピア・サポートたちから、各コミュニティの理念や活動内容等について紹介してもらった。

②では、他者を支援する活動の基盤となる自己理解そして他者理解について、ユング心理学に基づく「8つの性格別タイプ分析」を取りあげ、習慣化された自己の言動について認識してもらうとともに、多様な性格パターンの存在を知り、人間の多様性を理解する機会とした。

③では、日々の日頃のコミュニケーションを振り返るとともに、ピア・サポート活動を行う際に必要となる、話し手の気持ちを汲み取る「傾聴」

と、聞き手が理解しやすいように「自分の意見を明確に伝える力（アサーション）」を身につけられるよう、ワーク中心で学んだ。

④では、プランニングの概要を説明するとともに、どういった目的で誰を対象に何をするのかといった立案や、具体的に何をいつまでに実行するのかといったスケジューリングについて、チェックリスト等でおさえるべきポイントを確認しつつ、グループワークで体験した。

## 5 所 感

①はボランティア活動支援グループ職員、②③④は学生支援室 TA が担当することで実施した。実施後には振り返りをきちんと行い、そこで出た改善点等を反映することで、回を追うごとにより良いプログラムになつたのではないかと考える。

受講者アンケートでは、「ワークを交えての研修だったので、よく理解することができた」「研修の内容を活かして、これから活動を頑張りたい」「4つの研修を通して様々なことを学ぶことができ、今後の活動につなげたい」などの記述があり、本研修の目的を達成することができたと思料する。

一方で、全プログラムを受講修了せず、ピア・サポートとなれない学生が少なからず発生した。研修に対する意欲が高まるような働きかけを行ったり、受講しやすい日程の設定を考えるなど、研修生全員が研修生登録をした年度内に必ず受講修了し、ピア・サポートとなるよう引き続き取り組んでいきたい。

## 1.4 スキルアップ講座

1 実施目的 ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を身につけ、より多角的で質の高いピア・サポート活動を行えるようにするとともに、ピア・サポートとしての意識を高め、ピア・コミュニティの継承を行う人材を育成することを目的とする。

2 対象 シニア・サポート、ピア・サポート、研修生

3 テーマ・実施日時・講師・受講者数

	テーマ	実施日時	講師	受講者数
①	ピア・コミュニティをマネジメントする	6月27日（水） 18:00～19:30	管財課職員 日本ピア・サポート学会認定ピア・サポートトレーナー 松田 優一	7名
②	関西大学を知る	7月4日（水） 18:00～19:00	株式会社関大バンセ代表取締役社長 元学校法人関西大学法人本部長 五藤 勝三	9名
③	ピア・サポート詳論	10月2日（火） 18:00～19:30	大阪産業大学講師 元関西大学学生支援室TA・RA 山田 嘉徳	8名
④	傾聴トレーニング	10月17日（水） 16:20～17:50	学生相談室相談員 植並 鈴枝	9名
⑤	ストレスマネジメント	12月12日（水） 16:20～17:50	追手門学院大学特任助教 臨床心理士 元関西大学学生支援室TA 河崎 俊博	12名
⑥	思いやりを形にする	3月5日（火） 10:40～12:10	教育推進部教授 三浦 真琴	8名

※受講者数には、ピア・サポートの他、学生支援室 TA、支援部署教職員を含む。

4 概要・受講者の声・講師からのメッセージ

①「ピア・コミュニティをマネジメントする」概要

はじめに、ピア・サポートの定義やボランティアとの違いについて説明があり、ピア・サポート活動は課外活動ではなく「教育活動」であり、「知識」や「技術」の実践活動であることを強調された。

続いて、マネジメントについて、その意味や必要性について説明があった。ピア・コミュニティをマネジメントするにあたっては、それぞれのコミュニティのミッシ

ヨンや目標を共有し、“ナナメの関係”（ピア・サポート同士も支える側と支えられる側になりながら、みんなで成長していく関係）で、現在（短期）から未来（長期）に向かってのバランスをとり、状況に応じて柔軟に行ってほしいとの話があった。

最後に、関西大学におけるピア・サポートの取り組みについての説明や、より良いピア・サポート活動を行うためのコツの紹介があり、受講者にとって、ピア・サポート活動について改めて考え、今後のより良い活動のためのヒントを多数得る機会となつた。

#### 受講者の声

- ・有意義なピア・サポート活動を行うために必要なことを知れた。
- ・なぜピア・サポート活動をするのか、改めて考える機会となった。
- ・今まで知らなかつたことを多く知れたので、今後の活動へのやる気が変わった。

#### 講師からのメッセージ

大学におけるピア・サポートは学生目線で「あつたらいいな」と思うモノ・コトを創造する活動であり、それを通じて、他者を支援し、自分自身を成長させていくプロセスです。関西大学には学生のチャレンジを応援する環境があります。思い切って取り組み、成長も失敗も皆さんの糧にしてもらえたならと思います。

「できることをできるだけ。できることはきっとある。」

#### ② 「関西大学を知る」 概要

はじめに、大きく①大学生数の変化、キャンパスライフの変化、学生気質の変化など、大学を取り巻く環境の変化、②AI や IoT を推進する政府の取り組みによる 15 年後以降の一般的に予想される社会構造の変化の 2 つの要因をもとに、関西大学がピア・サポート活動の取り組みを始めた経緯と今後の方向性について説明があつた。

続いて、ピア・サポートとして身につけておきたい知識やスキル、ピア・コミュニティに期待すること、充実したキャンパスライフを過ごすために心にとめておきたいことなど、ピア・サポート活動を実践するために必要な知識や意識について、幅広くお話ししていただき、社会人基礎力についても言及があつた。

#### 受講者アンケート

- ・ピア・サポート活動が、社会で必要なスキル、社会人基礎力を身につけることにも役立つことが分かった。
- ・ピア・サポート活動で必要なスキル等が理解・再認識できた。
- ・関西大学について新たに詳しく知ることができた。

#### 講師からのメッセージ

まず、同じ立場の学生のキャンパスライフのサポート、相談役としての日頃のピア・サポート活動への取組みに対し、感謝とともに敬意を表します。この活動により、

「人を動かし」、「組織を動かす」ことを通じて社会人基礎力を実践的に身に付けてください。また、もっと多くのピア・サポータを集めて、蓄積したノウハウを活用して、ピア・サポート体制構築の目的の一つであった、入学式や卒業式等の各種大学行事の企画・運営など「学生（ピア・サポータ）が大学を動かす」ような活動にも取り組むことができると、すばらしいと思いませんか。

### ③ 「ピア・サポート詳論」 概要

資料に基づき、ピア・サポートの基本的な考え方や理論、関西大学におけるピア・サポートのはじまりと取組み、他大学におけるピア・サポート事例等の概論について説明があった。また、詳論として、ピア・サポートに関する実態と理論、関西大学のピア・サポートの特色、ピア・サポートの可能性について説明があった。

続いて3名ずつの2グループに分かれ、「ピア・サポートで学べること・学べそうなこと」、「ピア・サポートでこれから取り組みたいこと」についてそれぞれ個人で考え、グループ内で共有し、模造紙に意見をまとめるワークを行った。最後に、グループごとに作成した模造紙をもとに発表を行った。

#### 受講者の声

- ・他のコミュニティのメンバーとピア・サポートについて深く考えることができてよかったです。
- ・ピア・サポートを通じて学べることを意識して活動することで、より多くの力を身につけることができそう。
- ・普段の活動で感じていることを文字化することで、自覚することができ有意義な時間だった。

#### 講師からのメッセージ

受講者の皆さんに積極的に参加して頂いたおかげで、こちらも楽しく有意義な時間となりました。講義でも触れさせて頂きましたが、自分たちが関わっているピア・サポート活動をいったん相対化してとらえてみることも重要です。今回の研修をきっかけに、関西大学ピア・コミュニティの特色や可能性について、今後も考え続けて頂ければ幸いです。

### ④ 「傾聴トレーニング」 概要

はじめに、各自で普段の話し方、聞き方について振り返り、自身のコミュニケーションの特徴を考えた。続いて、「聞く・聴く・訊く」の意味の違いや、傾聴の基本的態度、反対に話し手への受容を妨げる要因について説明があり、傾聴とは相手の思いを聴き、理解することであり、そのようにして関わることで信頼関係を築けたり、相手の自己理解が進むというような効果をもたらすことを学んだ。

次に、3人グループになり、話し手／聞き手／観察者の三役に分かれ、聞き手が手元でお題の漢字を書きながら話を聞く「①ながらきき」のロールプレイに取り組んだ。

続いて傾聴の技法を確認した後、もう一度グループになり、聞き手は傾聴の技法を取り入れて話を聞く「②思いを聴く」というロールプレイに取り組んだ。それぞれのロールプレイの後には、話し手／聞き手はどのような気持ちがしたか、観察者は話し手／聞き手の様子について感じたことなど、グループで振り返りを行った。

#### 受講者の声

- ・実際にワークを行うことによって、「傾聴」の効果に気づくことができた。
- ・ピア活動だけでなく、社会に出た後にも役に立つ話を聞くことができよかったです。
- ・これからの人とのつきあい方が変わるような内容で、非常に有意義に感じた。

#### 講師からのメッセージ

今回の研修では、日常意識せずに会話している状態を再体験していただき、傾聴することによって相手の話しがどのように自分に入って来た（「思いが聴けた」）か、そして、話し手は傾聴してもらえると「受容」してもらえたことで話しやすさや会話の進み具合などを体験していただけたようです。今後のサポート活動などで役立てていただけたら嬉しいです。

#### ⑤「ストレスマネジメント」概要

はじめに、メンタルヘルスやストレスについて説明があった。ピア・サポート活動におけるストレスについてもふれられ、人と関わる活動で起こり得るバーンアウトについて、ボアアウトと比較して説明があり、燃え尽きてしまう前にセルフケアをすることや、ソーシャルサポートの大切さを確認した。

次にチェックシートを用いて心の疲労度について自己診断を行った。続いて、ストレスマネジメントの説明があり、コーピング（ストレスに対する意図的な対処プロセス）レパートリーをたくさん持っておき、ストレスと上手くつきあえるようにしておくことが大切であるとの話があった。

最後に、自分の気持ちや身体の感覚に注意を向け（フォーカシング）、気がかりに感じていることを付箋紙に書き出すワークを行った。書き出した付箋紙をA3用紙に貼りつけ整理することで、自分が今求めていることがはっきりしたり、心がすっきりしたりすることを体感する機会とした。

#### 受講者の声

- ・最近ストレスを感じることが多かったが、この講座を通してストレスの原因を探り、今やるべきことが少し見えてきた気がする。
- ・ストレスは、ピア・サポート活動だけでなく普段からあるものなので、つきあい方を学べてよかったです。
- ・周囲にストレスがたまっているそうな人がいたら、今回学んだことを教えてあげようと思った。

### 講師からのメッセージ

セルフケアは、「気づき」から始まります。研修では、心理療法の一技法であるフォーカシングを体験し、まず、からだの感じに気づくことを促しました。次に、付箋紙を用いて「心の整理」を行い、スッキリした気分を味わいました。最後に、気がかりを3領域に分けることで、現在対処可能な気がかりがあるかどうか、具体的な行動につながる一歩を考えてみました。ぜひ、普段でも活用してください。

### ⑥「思いやりを形にする」概要

はじめに、ウォーミングアップとして「世界で最も危険な物質は何ですか?」という話を聞き、その物質を規制すべきかどうか考えた。情報をうのみにしないこと、情報を発する人の属性にとらわれないことなど、物事を考える上で大切な心構えについて学んだ。

次に、各自で、「教育・研修・支援・学び」の言葉の中から選んだ1つについて、そのイメージをマインドマップで表すワークに取り組んだ。講師からは、対象者が自ら考え学びたいと願うようになるためには、まず自分自身の「教える⇒学ぶ」「支える⇒解決する」といった間違った認識を変え、寄り添うことであるとの話があった。

その後、2人組となりそれぞれが見えないように座り、1人がお題となる物の形や位置情報に関する情報だけを相手に伝え、相手はその情報からお題の物を再現するというワークを行った。伝える側は、「見えない」立場にたって丁寧に説明する、思い込みで話を進めず相手がどういう状況かを確認するなど、自分本位で話を進めないことが寄り添うための大変な姿勢であると学んだ。

### 受講者の声

- ・どのように全体をまとめたり、新メンバーに教えたらいいか悩んでいた時があったので、ためになった。
- ・相手ではなく自分が変わるという言葉がいいなと思った。
- ・自分の視野がいかに狭いかがわかった。

### 講師からのメッセージ

後進への伝達はしばしば熱を帯びますが、その成否は熱量の大小では決まりません。経験や知識の少ない人々を何かが不足した存在、教えられるべきものと考えると I'm OK, you're not OK というポジションが生まれてしまいます。相手が求める意味と自分が伝えたい意味が出会うように「対象ファースト」というスタンスを忘れないようにしてください。

## 5 スキルアップ講座全体として

昨年度の課題であった受講生の時間的・人数的制約に鑑み、ピア・サポートの詳論や社会人基礎力などの基本的な学びから、「マネジメント」「傾聴」「ストレス」「思いやり」といった活動現場で直面する具体的なテーマに関する内容まで、本年度は幅広

い参加者を募るべく講座数を絞り、6つの講座を開講することとした。

本プログラムの実施目的となる「アドバンストなスキル・知識等を身につけ、より多角的で質の高いピア・サポート活動を行えるようにする」ことについては、各講座別の「4 受講者の声」を見ても概ね成果があがったと言えるが、全般的に参加者数の伸びが見られず、「ピア・サポートとしての意識を高める」ことについては満足のいく結果は得られず抜本的な改善が必要と考える。

スキルアップ講座の受講が自身のスキル向上だけでなく、シニア・サポートの認定条件に結びつくため、改めて受講することの意味・意義について伝えていく必要があると考える。併せて事務局としても受講喚起につながるような魅力ある講座内容の検証や、ピア・コミュニティにおけるシニア・サポートの位置づけを向上させることも検討しなければならない。また各スキルアップ講座の相関性を考え、より理解が深まることを目的とし受講対象者へ積極的な告知をすることも行っていきたい。（例えば「ピア・サポート詳論」を受講後に、「ピア・コミュニティをマネジメントする」の受講を推奨する等）

今後も「ピア・コミュニティの継承を行う人材育成」という目的が果たされることを念頭に、上述した諸課題の解決を行うべく、本プログラムを通じた専門的知見による気付きによって、ピア・コミュニティのさらなる活性化に繋げたいと考える。

## 1.5 効果測定

- 1 実施目的 ピア・コミュニティに所属する学生を対象に、①自らについて振り返る機会を提供し気付きを促すこと、②その気付きを集約しピア・サポート活動を行うことの効果を目的とし、「ピア・サポート活動に係るアンケート」を実施している。
- 2 対象 研修生、ピア・サポート、シニア・サポート
- 3 実施方法 2018年12月～2019年3月の間、ボランティア活動支援グループ職員が、各コミュニティのミーティングに出向き、20分程度で実施。なお、アンケート未回答者に対しては、各コミュニティ代表者を通じてメールを送信し、メールでの回答も受け付けた。
- 4 回答数 51件（メールでの回答3件を含む）
- 5 概要
- ・「社会人基礎力尺度」（関西大学版）[山田・押江・田中、2009]を「ものさし」として自己評価し、気付きを作る。
  - ・ピア・サポート活動を始める前、もしくは1年前と変化したと思う項目について、自由に記述することで振り返る。
  - ・なぜそのような変化が生じたか（生じなかったか）を自由に記述することで振り返る。
- 6 整理方法 「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」は、ピア・サポート活動での様々な体験を通して、\*社会人基礎力や他者を思いやる豊かな人間性の涵養を図る取組である。よって、学生から得られた主な回答を、社会人基礎力で挙げられている「12の能力要素」及び「他者を思いやる豊かな人間性」で分類した。  
なお、個人の特定につながる表記については、一部変更・削除した。  
※「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え方力」、「チームで働く力」の3つの能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事していくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱している。
- 7 回答
- 問A群「ピア・サポート活動を通して生じた変化はありますか？過去（活動期間が1年未満の方はピア・サポート活動を始める前、活動期間が1年以上の方は1年前）のあなたと比較して、自由に書いてください。」
- 問B群「なぜそのような変化が生じたのか（生じなかったのか）、気付いたことを自由に書いてください。」

問 A 群	問 B 群
<b>【主体性】物事に進んで取り組む力</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 去年は企画をサポートする側であることが多かつたが、企画を考える、実現に向けて動く主体性のようなものが少し出てきたと思う。</li> <li>● 1人で考えて行動することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画書作りに協力したり、企画で前に立って話すなどして、より深くコミュニティの活動に参加するようになったからだと思う。</li> <li>● 1人で企画を考える機会があったから。</li> </ul>
<b>【働きかけ力】他人に働きかけ巻き込む力</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人を動かすことの難しさを知った。</li> <li>● 企画を成功させるためには、絶対に人の協力が必要であり、1人ではなかなかうまくいかないと活動を通して知ったので、人と協力する重要性をさらに強く感じるようになった。</li> <li>● 1人で行動することに比べて、集団で企画の立案や実施することを通して、より集団をマネジメントする力がついた。</li> <li>● 初対面の相手に自分から積極的に話すようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 普段なら絶対にならない代表という全体を引っ張っていく立場になったから。</li> <li>● 自分が企画担当者として活動に携わる機会が増え、今まで以上に他の人に協力してもらう大切さを知った。</li> <li>● 自分が代表になったことによって、責任感が増したから。</li> <li>● 企画を通して、知らない人と交流することが多かったため。</li> </ul>
<b>【実行力】目的を設定し確実に行動する力</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまで、物事に取りかかる前からさまざまことを考えすぎた結果、取りかかるのが遅くなつたが、サポート活動を通じて、考え方行動する習慣が身についた。</li> <li>● 今まで以上に人に確認を取るようになった。</li> <li>● 質問をするようになった。</li> <li>● 今ある課題について後先を考え、責任を持って取り組むようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティの活動によるものが起因すると感じた。</li> <li>● 計画書やアイスブレイクを担当するにあたって、1人のミスで全体に迷惑がかかること思ったから。</li> <li>● 先輩が企画についてのことや、手続きのことについて質問して確認することをしていたので、影響を受けた。全体を見るのは上手くないが、細かいところが目につくようになった。</li> <li>● 企画を担当した時に、今まで避けてきたリーダーになったため。</li> </ul>
<b>【課題発見力】現状を分析し目的や課題を明らかにする力</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 何事があっても、冷静に対処できるようになり、適宜アドバイスをより求めることができるようになったと思う。</li> <li>● 物事を深く考えるようになった。</li> <li>● 大型の企画をする機会が多く、企画のマネジメントにより留意できるようになったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● メンバーが少人数となったため、自分をより俯瞰する機会が多くなったからだと思う。</li> <li>● 企画は大まかではだめだから。</li> <li>● 企画で難しい場面に直面することが多かったため。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● さまざまな面から物事を考えられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画を進めるにあたり、予算について考えたり、開催時期はいつがいいのかなど、さまざまなことを考えなければならないから。</li> </ul>
<b>【計画力】課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 物事を進める時、後がどうなっていくのかということを考えて進めるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動は続くものなので、後になって取り返しつかないことになってしまふから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 優先順位を決めて作業することで、効率よく仕事を済ませられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的に活動に関わり、色々な仕事を経験したから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画性が身についたと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画を計画する際に、実施日から逆算して、いつまでに何を終わらせればよいのか考えることが多かつたからだと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● すべき仕事が分かってきたので、いつまでに何を終わらせておかなければならないのかなどの計画を、しっかり立てることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでの活動の経験から。</li> </ul>
<b>【創造力】新しい価値を生み出す力</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● さまざまな考え方やアイデアの出し方を学べた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議の中で、意見がまとまらないこと、なかなか決定できないことがあり、苦労したから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピア活動を始める前よりも、意見をより深く考えたり、新たな意見を考えるということが少しできるようになったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピア・コミュニティの会議などを通じて、意見を求められることが多くなったからであると考える。また、研修やスキルアップ講座に参加することで、新たな意見の考え方を学んだり、別の視点から物事を見る力がついたと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 独創性や協調性、機転の利きやすさなどが身についた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分自身が内気だった面が大きかった分、明確になったように思われる。</li> </ul>
<b>【発信力】自分の意見を分かりやすく伝える力</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の意見が言えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動の中で、意見を言えるような雰囲気があるから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文章力がついた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画書、報告書などの文書の作成を通じて、相手にわかつてもらえるよう工夫するようになったため。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループにおける話し合いで、自分の意見を発言することが苦手と感じ、それを克服する努力をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 周りに主体的な学生が多いため。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分から意見を発信するより、人の話の聞き手ばかりにまわっていたが、活動を通して意見を言う機会が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表という役職になり、会議の進行をする上で、自ら発言しないといけない状況になったから。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 意見を伝える機会があった時、少ないながらも意見を言うことができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議に出席して考えたから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人前で話すことが苦手だとは思わなくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議で司会をしているから。副代表という立場で、他のコミュニティの人と話すこともあり、身をわきまえた言葉選びをしていることがあるから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 比較的自分の意見を言えるようになったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の意見を言える機会が増えたからだと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主張が強くなったように思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の思うことをしっかり伝えることが、会議を行う上で必要だったから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人と話すことが以前より苦手ではなくなくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画等で話す機会が増えたから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議などを通して、自分の意見を前よりも言えるようになり、他者との交流も増えた気がする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分を見つめる機会が増えた。自分の意見を言う機会が増えたので、自信が前よりもついた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の考えをより表現できるようになったを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動して1年以上経ち、活動内容が分かってきた。また、自分が実際に経験して自分の意見を持つようになったから。</li> </ul>

#### 【傾聴力】相手の意見を丁寧に聞く力

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他人の話を良く聞くようになったと思う。「傾聴」とまではいかないかもしれないが、意識するようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 後輩に今後のコミュニティを任せていくにあたり、自ら考えて動いてもらえるようになってほしかったため、自分から提案するのではなく、意見をできるだけ出してもらうためにも、聞き入れる姿勢を作るようにした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 傾聴などのスキルが身についた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2回生になったことで、責任や立場が生じたから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他の人の意見にしっかりと耳を傾けるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピア・コミュニティの会議などを通じて、意見を求められることが多くなったからであると考える。また、研修やスキルアップ講座に参加することで、新たな意見の考え方を学んだり、別の視点から物事を見る力がついたと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 耳を傾けるという面で成長したのではないか感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 意識の高い人たちと一緒に活動していたので、自然とそうなったのだと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピア・サポート活動に関わることで、人の意見・考えを聞く能力が身についている感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議や企画等でさまざまな考えを持った人たちと話す機会が多くあり、自分の意見との違いがあることが当たり前ということや、人の話の聞き方を常に学び続けることができたので、変化が生じたと考える。</li> </ul>

#### 【柔軟性】意見の違いや立場の違いを理解する力

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分と違う意見に出会うことが楽しくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピア・コミュニティに参加することで、所属する学部とは異なる学生や、様々な団体に所属する学生に出会うことができたから。</li> </ul>
---	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>ピア・サポート活動を通じて、人と人とのつながりの重要性についてよく理解できたと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピア・サポート活動では、学生と職員、学生と学生といったさまざまなつながりから行われていることを知り、実際に活動することによって理解した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>以前よりは、比較的自分の意見を主張しすぎないようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まわりに傾聴力の高い人がいて、見習おうと考えたから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>独創性や協調性、機転の利きやすさなどが身についた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身が内気だった面が大きかった分、明確になったように思われる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの中で、相手の意見や考えを聞きながら、自分の意見を考えられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と話し合う機会が増えたから。</li> </ul>

#### 【情況把握力】自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーをやっている中で、団体としての組織のあり方や、連絡伝達などをよく考えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回活動に参加する人が同じというわけではないから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>全体像が見えるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな企画を見てきたから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー1人1人の状況や、1つ1つの企画の進捗状況など、全体をしっかりと把握し、上手に運営していくにはどうすればいいのかを考えさせられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段なら絶対にならない代表という全体を引っ張っていく立場になったから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>俯瞰的に物事を見つめることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表の経験を通じて。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>昔に比べると、視野を大きく持てるようになったと思う。目の前で自分が抱えている課題だけでなく、他のメンバーのことや、この先の計画のことも考えられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画で自分がリーダーになってから、そんな風に考えることができるようになった。また、後輩ができたことで、周りのことを意識して考えられるようになったと思う。</li> </ul>

#### 【規律性】社会のルールや人との約束を守る力

<ul style="list-style-type: none"> <li>自分に与えられた作業を適切に行い、集団活動の円滑化に貢献できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が自らの作業をやらないと相手に申し訳ないという気持ちが強くなったから。</li> </ul>
--	---

#### 【ストレスコントロール力】ストレスの発生源に対応する力

--	--

#### 【他者を思いやる豊かな人間性】

<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの人に喜んでもらえる企画を作りたいと考えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画書作りに協力したり、企画で前に立って話すなどして、より深くコミュニティの活動に参加するようになったからだと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人の意見を尊重する大切さを学ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考え方の違う人や学年の違う人との交流がたくさんあり、このようなことに気づくことができた。</li> </ul>

#### 【その他】

<ul style="list-style-type: none"> <li>関西大学への愛校心がより強くなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を通じて、より関西大学のことを知ることができたから。</li> </ul>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>年上の方や、大人の方との会話への苦手意識が薄まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年上の方や、大人の方の中に交じって、自分の意見を求められるような環境下に置かれたから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1年前に比べて、他のコミュニティの人と交流する機会が少し増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合宿や企画での交流。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に参加できていなかったので、変化は特にない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加しないなりに、もう少し後輩のことを気にかけていればよかったと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>上下関係なくコミュニケーションをよく取るようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動して1年以上経ち、活動内容が分かってきた。また、自分が実際に経験して自分の意見を持つようになったから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの企画を作り、当日成功させるという大変さを知り、自分が何かの企画に参加する時の態度が変わったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分も企画する立場になって、企画の裏側を知ることができたから。</li> </ul>

## 8 昨年度との比較

51件の回答中、15件が昨年度に引き続いての回答者であった。昨年度との比較を行う上で、15名の問A群に記述された内容に着目し、主な回答を下表にまとめた。

2017年度と同様、本調査をきっかけに各々が行ってきた活動を言語化し、リフレクションすることによって、自身の成長を再認識していることが伺えた。

2017年度	2018年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティの展望・ビジョンをより考えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何事があつても、冷静に対処できるようになり、適宜アドバイスをより求めることができるようになったと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>時間的余裕がなくなり、気持ちの余裕がなくなつた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他人の話をよく聞くようになったと思う。「傾聴」とまではいかないかもしれないが、意識するようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人と意見が合わないことが悪いことだと思わなくなった。自分の意見を持つことも大事だが、コミュニティの目標に適した意見を素直に受け入れることも大事だと気づいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>去年は企画をサポートする側であることが多かつたが、企画を考える、実現に向けて動く主体性のようなものが少し出てきたと思う。</li> <li>より多くの人に喜んでもらえる企画を作りたいと考えるようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>知らない人とも話せるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年前と比べて他のコミュニティの人と交流する機会が少し増えた。</li> <li>傾聴などのスキルが身についた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>企画書の書き方が大まかにだがわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体像が見えるようになってきた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に計画を立てて、行動できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優先順位を決めて作業することで、効率よく仕事を済ませられるようになった。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自ら考え、行動する力が以前よりついたと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分から意見を発信するより、人の話の聞き手ばかりにまわっていたが、活動を通して意見を言う機会が増えた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の意見をちゃんと伝えられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の考えをより表現できるようになったと感じる。</li> <li>● 上下関係なくコミュニケーションをよく取るようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティの活動内容がわかつてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● すべき仕事がわかつたので、いつまでに何を終わらせておかなければならないなどの計画をしっかりと立てることができるようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 常に企画や計画の進捗具合を意識するようになった。進捗具合を企画の実施日から逆算して考え、余裕がないときには介入するなど、臨機応変に対応できるようになった。</li> <li>● 所属コミュニティだけではなく、ピア・コミュニティ全体のことを考えることが多くなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 俯瞰的に物事を見つめることができるようにになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の考えを言うことに少し慣れた。</li> <li>● グループで話し合うことに慣れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問をするようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 最初は会議も聞くだけだったが、少しずつだが発言するようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人前で話すことが苦手だとは思わなくなった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● やるべきことに関して、一気に全部をこなそうとするのではなく、優先順位をつけて取り組めるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画性が身についたと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画に多く参加したり、意見を積極的に言っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人と話すことが以前より苦手ではなくなった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピア・サポート活動を通して、他の人と協力することの重要性がよくわかった。また、他の人を支援するということがどういうことなのか学ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画を成功させるためには、絶対に人の協力が必要であり、1人ではなかなかうまくいかないと活動を通して知ったので、人と協力する重要性をさらに強く感じるようになった。</li> </ul>

## 9 所 感

本アンケートは 2014 年度からの実施であり 5 年目を迎える。当初単年度では見出せなかつた変化や成長が、ここ数年の経年比較において如実に確認できた点は本調査において一定の成果があったといえる。

さらに今後は、5 年間蓄積されたデータを具現化するべく、年に 1 度の量的なデータの分析ではなく、記述事項に基づいた質的データの分析を行うことを検討したい。例えば、シニア・サポータを中心に面談やインタビューなどで聞き取りを行い、行動的・心理的变化の軌跡を分析することによって、活動に対するモチベーションの向上または維

持となった「きっかけ」や、失敗や挫折経験からの学びなど、成長の分岐点となる事象が何であったのかを明らかにしたい。またそのデータをもとに、スキルアップ講座を中心とした各研修内容の見直しや、支援部署・TAの役割についても検証を行い、サポートの成長を支えて行きたいと考えている。



## **2 ピア・コミュニティの活動報告**

## 2.1 ピア・コミュニティ活動のあゆみ

2008 年度に発足した「国際コミュニティ “KU ブリッジ”」、「ピア・コミュニティ運営本部」、「ピア・スポーツコミュニティ」、2009 年度に発足した「KU サポートプランナー」、「KU コアラ」、「KU サポーターズ」、「ぴあかんず」、2010 年度に発足した「i.com」、あわせて 8 つのピア・コミュニティが、これまでピア・サポート活動を行ってきた。そして、2018 年度には 9 つ目のピア・コミュニティとして、新たに「関西大学学生 PR チーム SUGaO」が発足した。

以下の表は、2018 年度における各ピア・コミュニティのあゆみである。メンバー不在により活動できなかったコミュニティがあり、継続して活動の再開に向けて方策を考えていきたい。

### ▼年間の活動状況

	ピア・コミュニティ 運営本部	国際コミュニティ “KU ブリッジ”	ピア・スポーツ コミュニティ (PSC)	KU サポート プランナー (KUSP)	KU コアラ	KU サポーターズ	ぴあか んず	i.com	関西大学 学生 PR チ ーム SUGaO	代表者 会議
2018 年										
4 月	・新入生誘導活 動 ・新入生歓迎オリエンテーシ ョン	・ようこそ関大 Festival2018 ・KU バザー ・Welcome event with KUBridge ・Facebook の運 営 ・Twitter の運 営		・料理企画	・特集本展示 「ひとり暮 らし編」					10 日 24 日
5 月		・新緑ハイキン グ 2018		・メンタル トレーニ ング教室						8 日 22 日
6 月	・Welcome to ピア・コミュニティ	・デコ巻きずし 体験		・電子ブック 使い方講座 ・電子ブック サービスの PR 小冊子 の配付 ・第 2 回特集 本展示「旅 行」	・電子ブック 使い方講座 ・電子ブック サービスの PR 小冊子 の配付 ・第 2 回特集 本展示「旅 行」	・コ ミュニ ケーショ ン講座				5 日 26 日
7 月										10 日
8 月		・KU ブリッジメ ンバー夏合宿								28 日
ピア合宿										
9 月		・外国人留学生 キャンパスツ アー								
10 月		・KU Clubs for Internationa l Students ・KUBridge tour in Rokko ・KU バザー								2 日 16 日 30 日
11 月	・peer 憇いの 場“はねやす め”	・防災について 学ぶ								13 日 27 日

	ピア・コミュニティ 運営本部	国際コミュニティ “KU ブリッジ”	ピア・スポーツ コミュニティ (PSC)	KU サポート ブランナー (KUSP)	KU コア	KU サポートーズ	ぴあか んず	i.com	関西大学 学生 PRチ ーム SUGaO	代表者 会議
12月		・クリスマスギ ヤンドル作り ・自分だけの年 賀状を送ろう		・第一回ピ ア・カフェ			・SNS 開設			11日
2019年										
1月										8日
2月										26日
3月	・ぴあのわ 2019	・外国人留学生 キャンパスツ アー								26日
ピア春企画「心技体」（1日研修）										

【参考】各ピア・コミュニティのあゆみ

	ピア・ コミュニティ 運営本部	国際 コミュニティ “KU ブリッジ”	ピア・スポーツ コミュニティ (PSC)	KUサポート プランナー (KUSP)	KUコアラ	KU サポートーズ	びあかんず	i.com	関西大学学 生PRチーム “SUGaO”
2007									
2008									
2009									
2010									
2011									
2012									
2013									
2014							活動休止		
2015			活動休止中					活動休止中	
2016									
2017							2018年3月 ピア・サポータ 有志により復刊 号を発行		
2018							活動再開		2018年4月 発足

## 2.2 ピア・コミュニティの活動

この章では、ピア・サポートからの声を中心にピア・コミュニティの趣旨と特徴、各活動の実際を紹介する。

### 2.2.1 ピア・コミュニティ運営本部

#### ■ ピア・コミュニティの趣旨

ピア・コミュニティ運営本部（以下、「運営本部」という）は、存在するすべてのピア・コミュニティを見渡し、ピア・コミュニティ間の連携や情報共有を促す役目を担っている。そのため、ピア・サポートの合宿や研修などの企画・運営を行い、ピア・コミュニティ間の交流を促進している。このほか、関西大学におけるピア・コミュニティの普及と各ピア・コミュニティの活動支援を行っている。

#### ■ 所属人数

20名 \*1年次4名、2年次6名、3年次4名、4年次6名（2019年3月末現在）

#### ■ ミーティングの概要

週1～2回（曜日は不定期。隨時、調整。）

#### ■ ピア・コミュニティ内の連携

今年度も会議の改善と研修生がピア・サポート活動に積極的に関わっていける環境づくりに努めた。

会議を1週間に1回設け、メンバーの出席率が高い日程と時間に設定した。また、欠席者のために議事録をメーリングリストで送信する、定例会議とは別に情報共有の時間を設けるなどの取り組みによって、会議において活発な議論が行えた。

企画を進めていく際は、必ず研修生数名を交えて行った。こうすることで、研修生は活動になじむことができ、今後企画を運営していく上でのノウハウを学ぶことができた。

#### ■ ピア・コミュニティ間の連携

運営本部はその活動の趣旨から、必然的に他のピア・コミュニティを支援する連携体制を取っている。また、合宿などの合同企画を通じて、すべてのピア・コミュニティに所属するメンバー間の交流を促進させ、連携を深めることができるように活動している。

#### ■ 教職員との連携について

昨年度から、サポート自身が考えて行動できるようになる中で、支援母体であるボランティア活動支援グループの教職員から、要所で助言をいただきながら活動を進めてきた。今後も適宜教職員と意見交換をしながら、学生主体のより質の高いピア・サポートを目指していきたい。

#### ■ 昨年度からの改善点

今年度は、初めての試みとして、ピア・コミュニティとして新歓オリエンテーションに参加した。その結果、1年次が男女バランスよく加入し、昨年度に比べて同学年のメンバー同士の交流が深まったように感じる。しかし、2年次の人数が少なく、例年の企画同様の活動のみにとどまったため、活動の指針が定まらずメンバーのモチベーション低下につながった。また、1年次に経験を十分に積んでもらうことができたとは言えなかった。今後は、1年次中心に企画段階から担当してもらうことで、モチベーションを高めると同時に経験を積んでもらいたいと思う。

2年次は活動の中心メンバーであるが、人数が少ないことで企画の準備が担当者1人に集中してしまうという事態が生じた。この点については、メンバー間のコミュニケーション不足が考えられ、昨年度に引き続いての問題点である。ミーティング等を通して、メンバー間でより一層のコミュニケーションを図り、協力体制を確立することによって、活動を円滑に進めていきたい。

◆企画名 新入生を迎える！（新入生誘導活動）  
日 程 2018年4月1日（日）  
場 所 関西大学千里山キャンパス  
参加者数 18名（ピア・サポート16名、研修生2名）  
目的

- ・新入生・保護者の学内誘導を行うことで、入学式の円滑な進行を助ける。
- ・新しく関西大学の仲間（peer）となった新入生に対し、誘導活動を行い、ピア・サポートの広報を行う。
- ・ピア・サポート間の交流をする場とし、今後のピア・サポート活動を円滑にする機会とする。

#### 内 容

入学式開始の約1時間半前より、正門を中心とした学内での新入生・保護者の方の式場への誘導、写真撮影の補助及びスムーズな人の流れを作るための通路確保を行う。  
また、入学式終了時刻に合わせて、式場周辺で待機し、新入生・保護者の方からの質問や問い合わせに応じる。

#### 効 果

- ・新たに関大生の仲間（peer）となった新入生を歓迎し、新入生や保護者の方のサポートを行うことができた。
- ・他コミュニティからの参加もあったので、運営本部の活動理念の1つであるコミュニティ間の交流もできた。

#### 改 善 点

- ・記念撮影場所の1つである関西大学の石碑の場所で、列に並ばず、前からそのまま入り記念撮影をする新入生や保護者の方が見られたので、来年度はコーンを置く位置の工夫が必要であると感じた。
- ・道が混雑する中、時計台下を集合場所として大勢で道に広がる光景も多く見られ、通行が困難になったので、そのような場合への対応が課題である。
- ・入学式終了後、式場のどの場所からどの順番で新入生が退場してくるのかを把握しきれていなかつたため、保護者の方からの質問に答えることが難しい場合があったので、来年度からは事前把握が可能であれば、ピア・サポートへの配付資料に記載したいと思う。

#### 感 想

- ・ピア・サポート全員がトランシーバーを携帯し、情報を共有し合うことによって、一人一人が責任を持って円滑に案内や誘導を行うことができたので、有意義な活動になった。
- ・ピア・コミュニティのジャンパーや腕章を着用して立っていることにより、気軽に質問できる存在として役立てたのではないかと思う。
- ・今年度の反省を忘れず、来年度の活動につなげていきたい。

**◆企画名** 新入生歓迎オリエンテーション  
**日 程** 2018年4月2日（月）～4月4日（水）  
**場 所** 総合学生会館凜風館周辺  
**参加者数** 17名（ピア・サポート14名、研修生3名）

**目的**

- ・新入生歓迎オリエンテーションに参加し、ビラの配布や看板によるピア・サポートの普及とピア・コミュニティの広報を行う。
- ・新メンバー募集として、ピア・コミュニティに興味を持った新入生に対し、設置したブースで各コミュニティの説明を行い、新入生がピア・コミュニティを理解するための手助けとする。

**内 容**

- ・サークルガイドへピア・コミュニティ紹介ページの掲載を行った。
- ・ピア・コミュニティの広報用のビラを作成し、オリエンテーション期間中にビラ配りを行った。
- ・凜風館周辺にブースを設置し、ピア・コミュニティに興味を持った新入生に対して、コミュニティごとにガイダンスを行った。

**効 果**

- ・オリエンテーション期間の3日間で約1000枚以上のビラを配ることができたので、ピア・コミュニティの広報という目的を達成することができた。
- ・3日間合計で30人以上の新入生がブースでのガイダンスに参加してくれたので、ピア・コミュニティに対する理解の手助けができたと考える。
- ・コミュニティ同士の交流ができた。
- ・ピア・コミュニティ以外の団体であるボランティアセンター学生スタッフと、ブースが隣同士であったため交流ができた。

**改 善 点**

- ・急遽オリエンテーションへの参加が決定したので、運営本部以外のメンバーを代表者とし、オリエンテーション委員会に報告することになった。
- ・各コミュニティのオリエンテーション担当が集まる会議をあまり行えず、準備段階で遅れが発生した。
- ・オリエンテーション当日に、準備物の不足がわかり、それの作成によりブース担当者がブースにいられない時間が数回発生した。
- ・ビラを配る際に、ピア・コミュニティ全体として配るのか、コミュニティごとに配るのかを事前に決めておくべきだった。

**感 想**

オリエンテーション期間にブースを出すことは初めての試みだったので、準備物や提出物でわからないことが多数あり、戸惑うことがあったので、来年度以降も参加するならば、今回出た課題を反映させていきたい。

結果として、ビラを約1000枚以上配り、30人以上の新入生がブースに来てくれた。初めての試みだったが、結果が数字として表れているので、オリエンテーションの参加目的は達成できたように感じた。

<b>◆企画名</b>	Welcome to ピア・コミュニティ 2018
<b>日 程</b>	<u>2018年6月6日（水）、6月15日（金）</u>
<b>場 所</b>	<u>6日：第2学舎2号館 C401教室、15日：第2学舎2号館 C204教室</u>
<b>参加者数</b>	<u>6日：15名（ピア・サポート8名、研修生7名）</u> <u>15日：22名（ピア・サポート7名、研修生15名）</u>

#### 目的

- 新しくピア・コミュニティに入った新入生に、ピア・コミュニティやピアエリアの利用方法について知ってもらうことで、今後の活動を円滑に進める。
- ワークを通じて、研修生同士の交流を促すことで、各コミュニティの連携につなげる。

#### 内 容

##### [コミュニティ紹介について]

ピア・コミュニティ運営本部、KU サポーターズ、KU サポートプランナー、KU コアラ、KU ブリッジの 5 つのコミュニティの活動理念や最近の活動と、現在活動休止中である i.com、ぴあかんず、ピア・スポーツコミュニティについても活動理念を紹介した。

##### [アイスブレイク（他己紹介）について]

研修生の緊張をほぐすことに加え、お互いのことを知るためにアイスブレイクとして他己紹介を行った。また、今後ピア・コミュニティで活動していく上で、アイスブレイクを実際に使う機会は多く、そのためにアイスブレイクとは何かということも研修生に説明した。

##### [ワークについて]

研修生が躊躇なく先輩に質問できるようになること、そして先輩に質問しやすい環境を作ることを目的に実施した。また、各コミュニティのサポートや研修生と交流することで、参加者が今後ピア・サポート活動を行っていく中で継続的な交流を持てるようにする。

まずウォーミングアップとして二人組を作り、片方が何か名詞を思い浮かべ、もう一方が相手に質問を繰り返すことでその名詞を当てるゲームを行った。続いて 5~6 名のグループに分かれ、各グループに割り振られた先輩に対して研修生が質問をし、その人がどんな人物なのか自分たちで探り、プロフィールを作成するワークを行った。最後に、各グループで作成したプロフィールを、順番に発表してもらった。

##### [備品説明について]

ピアエリアに戻り、備品の取り扱いなどピアエリアを使用する際の注意点について説明した。

#### 効 果

- 研修生に、今後のピア・サポート活動を頑張ろうと思ってもらえた。
- 担当者以外のサポートも参加者募集に積極的に協力したため、全コミュニティからたくさんの研修生に参加してもらうことができ、自分が所属するコミュニティ以外のサポートと交流を深めることができた。

#### 改 善 点

- 担当者間で上手く仕事を割り振れたが、打ち合わせをもっと綿密に行う必要がある。
- グループでのワークだけでなく全体で交流できる企画を考える必要があった。
- 研修生の緊張をほぐせるように何か工夫をする必要がある。

#### 感 想

先輩と後輩が交流するという点においては成功したが、研修生同士の交流は少なかったように感じる。グループワークも多かったので、それとは別に全体で交流できるようなワークを行えばよりよいものにできると思う。

<b>◆企画名</b>	<u>2018年度 関西大学ピア・コミュニティ夏合宿</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年9月3日（月）※4日は台風接近のため中止となった。</u>
<b>場 所</b>	<u>関西大学 飛鳥文化研究所</u>
<b>参加者数</b>	<u>22名（ピア・サポート8名、研修生9名、学生支援室TA2名、教職員3名）</u>
<b>目 的</b>	

- ・ピア・コミュニティの枠を超えて交流することで、ピア・サポート同士の絆を深め、同じピア・サポート活動を行う仲間であることを感じてもらい、今後のコミュニティ間の連携を促進する。
- ・ピア・サポートの理念を見つめなおし、今後のピア・サポート活動に向けての自分だけの指針を考えてもらう。
- ・ピア・サポート活動を行うにあたって、必要な手続きを再確認する。

### 内 容

- ・アイスブレイク
- ・本部ワーク～今後のピア・サポートに向けての私の指針作り～  
(前半) クイズ形式でピア・サポートの理念の再確認を行った後、教職員、TA にピア・サポートが「今後のピア・サポート活動に向けての自分だけの指針」を考える上での参考となる話をしてもらった。  
(後半) 参加者に今後のピア・サポート活動に向けて、自分だけの指針を考えてもらった。

### 効 果

- ・楽しみながらピア・サポートの理念について再確認してもらうことができた。また、教職員・TA の話を聞いたことで、多角的にピア・サポートを見つめることができた。
- ・指針を作ったことで「ピア・サポートに対するモチベーションが上がった」などの感想が多く寄せられた。企画者側から見ても、各コミュニティのサポートが、どういったことをピア・サポートで大事にしていきたいのかを指針を通して知れたのでよかったです。

### 改 善 点

- ・台風などのアクシデントが生じそうな場合は、早めに実施に関する対応を考える。
- ・ワークでは、様々な人と交流できるようにグループ変えを積極的に行う。
- ・本部ワーク（前半）での教職員・TA の話が一方的だったため、参加者は終始聞くだけで集中力が続かなかったという意見があった。今後の企画では、参加者が受動的にならないような双方向的なワークになるように工夫する。また話の時間が長時間になってしまったため、途中に休憩の時間を設ければよかったです。
- ・日ごろから他コミュニティのサポートとつながりを持つようにして、参加者募集のしやすい環境を作る。

### 感 想

今回の夏合宿では、早い段階で企画の方向性が定まったため比較的スムーズに準備を進めることができた。また、担当者間で積極的にコミュニケーションを取ったことで準備の進捗状況を容易に把握することができた。しかし、ほとんどの準備を担当者で行ってしまったので、会議の時間などを使って担当者以外のメンバーにも何らかの形で夏合宿に貢献してもらえるように工夫すればよかったですと反省している。

合宿後のアンケートで、本部ワークの評判は良く、今回作成した指針をモチベーションにしてこれからピア・サポート活動に励んでもらえたらと願う。

また、KU ブリッジや KU サポートアーズからの参加者がゼロであったように、コミュニティの偏りが目立った。次回の春合宿ではすべてのコミュニティが参加してもらえるように尽力したい。

<b>◆企画名</b>	<u>peer 懇いの場 “はねやすめ”</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年11月1日（木）～11月4日（日）</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館1階 学生ラウンジ</u>
<b>参加者数</b>	<u>13名（ピア・サポート6名、研修生7名）</u>
<b>目 的</b>	

ピア・コミュニティには団体の知名度がまだ低いという課題がある。よって、大勢の人が関西大学に集う機会である学園祭を利用し、ピア・コミュニティについて気軽に知ってもらえる場を設けることで、団体への興味関心を喚起し、「おもしろさ」を感じてもらえるようにする。

本学学園祭は、毎年来場者数が多く大いに盛り上がっており、正門からメインストリートは出店数が多くたくさんの人でごった返している。しかし、休憩できる場所は限られており、来場者にとって休憩所を見つけ出すことさえ困難であるように思われる。そのため、ゆっくり座って休憩したり買ったものを飲食したりなど、来場者が学園祭をより楽しむことができるよう一息つける場所にする。

#### 内 容

- ・凜風館1階のピアエリア、コラボレーションエリアにコラボレーションコモンズの備品をお借りして、飲食可能で座って休憩できるスペースを設けた。
- ・各コミュニティから企画時や活動中の様子を撮影した写真を提供してもらい、ホワイトボードなどをを利用して展示した。
- ・企画場所には常時サポート・研修生を配置し、ピア・コミュニティに関する質問を受け付けることができるようとした。

#### 効 果

- ・今年度は合計522名が来場し、多くの方に休憩所を利用してもらうことができ、ピア・コミュニティの広報に繋がった。
- ・他コミュニティからの参加者と親睦を深めることができた。

#### 改 善 点

- ・休憩所の場所がわかりづらかったように思うため、休憩所の入口に看板を設置する。
- ・写真展示の場所を休憩所から離れたレイアウトにしたが、近くにした方が休憩しながらも見てもらうことができたかもしれない、休憩所のそばに写真展示を行うスペースを確保する。

#### 感 想

学園祭企画の準備にとりかかるのが遅く、学園祭当日が近づくにつれてやるべきことが重なってしまい、その結果担当者がその他のメンバーに指示を出したりする余裕が無くなり情報共有不足になってしまった。企画の計画をもっと早く行い、担当者以外のメンバーにもしっかりと作業を割り振ればさらに良い企画にできた可能性がある。

しかし、学園祭当日は他コミュニティの方の協力もあり問題なく企画を進行することができ、今年度も多くの方に休憩所を利用していただき、休憩所の必要性を確認することができた。また、この企画では運営本部と他コミュニティの参加者が協力して休憩所を運営したので、メンバー間の交流にもなり絆が深まったように感じられる。

今後も、学園祭という多くの人が集まる機会を利用してピア・コミュニティの広報に繋がり、他コミュニティやメンバー間で協力して行える企画を実施したい。

<b>◆企画名</b>	<u>ぴあのわ 2019 (全国大学ピアサポーター合同研修会)</u>
<b>日 程</b>	<u>2019年3月9日(土)～3月10日(日)</u>
<b>場 所</b>	<u>北海道大学札幌キャンパス(高等教育推進機構S講義棟)</u>
<b>参加者数</b>	<u>6名(ピア・サポータ 3名、学生支援室TA1名、職員2名)</u>
<b>目 的</b>	

- ①ぴあのわ 2019への参加を通して、全国のピアサポーターと交流する。  
 ②他大学のピア・サポート活動を知ると同時に、関西大学のピア・サポート活動を他大学に広報する。  
 ③教職員との連携を想定したコミュニケーションの取り方やマナーを学ぶ。

### 内 容

<1日目>

- ・プログラム1 パワポカラオケ式参加大学活動紹介
- ・プログラム2 分科会「リーダー、副リーダーの集い」に参加
- ・プログラム3 ワークショップ「連携のためのコミュニケーションマナー—心構えからメールまで—」に参加

・懇親会

<2日目>

- ・プログラム4 初日の振り返りと全体討議
- ・プログラム5 講演「自分を助ける、仲間を助ける—べてるの家のピア・サポート」

### 効 果

- ・近畿圏にとどまらず、日本全国のピアサポーターと交流することができた。
- ・日本全国のピアサポーターに関西大学のピア・サポート活動について広報することができた。
- ・分科会において、リーダー、副リーダーの悩みを共有することで、よりよい組織運営について議論を深めることができた。
- ・ワークショップにおいて、連携のための心構え、マナーを学ぶことができた。

### 改 善 点

- ・プログラム1において、他大学と比べて活動紹介用のパワーポイントに文字が多く、活動内容が容易に想像しやすいものであったので、他大学に関西大学の特徴を印象付けるには不十分であった。今後、他大学の前で活動紹介を行う場合は、図や写真などの視覚資料を多く用い、文章を極力少なくするなど、聞き手の想像力を掻き立てるような工夫を凝らす必要がある。
- ・KUコアラの名前の由来について十分に調べられていなかったため、他大学からの質問に上手く答えることができなかつた。個人的に調べるとともに、他コミュニティの名前の由来や詳しい活動内容の把握をすることが重要であると考える。

### 感 想

- ・参加した3名がそれぞれ積極的に様々な大学と交流したこと、効率的に多くのピアサポーターと親睦を深められた。
- ・他大学のピア・サポート活動と、関西大学の活動を比べることで、大きく異なる点や、似た悩みなどを発見することができ、それらを共有できたことは非常に貴重な経験になった。
- ・今後は、このぴあのわ 2019でつながることができた他大学のピアサポーターの企画に参加する、または関西大学の企画に参加してもらうことで関係をより深いものとしていくことが重要である。

**◆企画名** 2018年度 関西大学ピア・コミュニティ春企画「心技体」  
**日 程** 2019年3月11日(月)  
**場 所** 第2学舎2号館 C204教室、屋内グラウンド  
**参加者数** 14名(ピア・サポート11名、学生支援室TA1名、教職員2名)  
**目 的**

- ・企画の計画から実行までの過程を学び、実際にワークでそれらを体験することで、企画を実施するにあたって大切な知識を身に付ける機会にする。その中で、ニーズ把握のコツや効果的な振り返りの方法を考える場にもする。
- ・ピア・コミュニティの枠を超えて交流することで、ピア・サポート同士の絆を深め、同じピア・サポート活動を行う仲間であることを感じてもらい、今後のコミュニティ間の連携を促進する。

### 内 容

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 9:30  | ワーク班準備                  |
| 10:00 | ワーク「企画運営のプロセス」          |
| 11:30 | 昼食                      |
| 12:00 | スポーツ班準備                 |
| 12:30 | スポーツ企画(大縄跳び、ドッジボール、リレー) |
| 15:30 | 解散                      |

### 効 果

- ・実際に企画運営のプロセスを体験することで、企画の立案から総括まで具体的に何をする必要があるのか、どのようにして改善点を発見するかを参加者に理解してもらうことができ、今後に活用できるスキルを身に付けてもらうことができた。
- ・スポーツを通してコミュニティの枠を超えて交流することができ、ピア・サポート同士の絆を深めることができた。

### 改 善 点

- |   |
|---|
| ・当日に欠席者があり、ワークのグループ分けに影響が出たため、欠席者がいても混乱が起きないよう事前に人数の変更があった場合のことを想定しておく。 |
| ・ワークの間に休憩がなかったため、次回からは参加者に負担なく参加してもらえるよう適宜途中で休憩の時間を設け、ワークに集中できるようにする。   |
| ・スポーツ企画では、参加者によっては体調面で参加できないスポーツもあったため、見学者も楽しめるような内容にする。                |

### 感 想

企画の計画段階で情報共有不足により進行が遅れることがあったため、スムーズに準備できるようにメンバー間でより協力する必要があると感じた。しかし、企画当日はワークもスポーツ企画もスムーズに進行させることができ、コミュニティを超えて交流できる機会にもなり、ピア・サポート同士の絆を深めることができた。

スポーツ企画は今回が初めてであったが、交流する良い機会になったので今後もスポーツ企画を実施してみたいと感じることができた。今回の反省点を活かし、より良い企画を実施できるようにメンバー同士で協力し、コミュニティの枠を超えて交流できる機会を増やしていきたい。

## 2.2.2 国際コミュニティ “KUブリッジ”

### ■ ピア・コミュニティの趣旨

国際コミュニティ “KUブリッジ”（以下、「KUブリッジ」という）は、留学生の学生生活の充実を図るため、主に国際交流イベントを実施している。このイベントにより、留学生と日本人学生との交流を促進している。また、国際部と連携した活動も行っている。

### ■ 所属人数

25名 \*1年次9名、2年次8名、3年次3名、4年次5名（2019年3月末現在）

### ■ ミーティングの概要

KUブリッジ全体ミーティング 週1回、国際部ミーティング 月1回

この他、企画チームのミーティングを週1回、3部署（デザイン部、渉外部、人事部）のミーティングを週1回程度行う場合もある。

### ■ ピア・コミュニティ内の連携について

企画は3～4人程度のグループで考え、実行・振り返りまで一貫して行っているため、他のグループの状況がわかるように、週に1回の全体ミーティング（以下、「MTG」という）でKUブリッジ全員が必ず顔を合わせるようにしている。MTGの前半において各グループ5分程度で進行状況を報告したり、各グループが作成した資料など携帯やパソコンで誰でもいつでも確認できるようにすることで、情報共有を徹底している。またMTG後半において各グループから提案のあった課題についてディスカッションをしたりワークを行うことで、KUブリッジ全員のモチベーション向上とスキルアップを図っている。

### ■ ピア・コミュニティ間の連携について

主に連携する機会は代表者会議である。春と夏に行われるピア全体合宿や他コミュニティが実施している企画など関わる機会は多くあるが、主体的に参加するメンバーはほんの一握りなのが現状である。他コミュニティの学生と関わることのメリットを先輩から後輩へ伝え、連携を促進していく必要があると考える。

### ■ 教職員との連携について

関西大学のグローバル化はまだ改善の余地があり、KUブリッジと支援母体である国際部の連携を強化することで、学内での国際交流を活発化させることができると考えている。国際部の職員の方と関わる機会を得るために、昨年度に引き続き、毎月1回国際部職員とKUブリッジ幹部との話し合いの場を設けた。国際交流の活性化やKUブリッジが国際部へ求めていること、国際部がKUブリッジに求めるについて意見交換をし、その結果、KUブリッジと国際部の関係性がさらに密になった。今後も国際部との連携の重要性を認識し、共に関西大学のグローバル化を促進していきたい。

### ■ 昨年度からの改善点

KUブリッジをよりよくするには、全員が関西大学のグローバル化を促進するために今年1年KUブリッジとして何をしなくてはいけないかしっかりと目標を持ち、その上で企画の質とともに、一人ひとりの意識を向上させる必要があると感じ、サポートにまわることが多かった既存メンバーも自分の考えた企画を実施するなど、新しいことに取り組んだ。さらに自分たちの弱みを見つけ、改善するためワークを行った。このワークは次年度も引き続き行うが、ワークのみにとどまらず実際に普段のミーティングや企画に反映していくことが重要と考える。また、弱みのひとつとして、既存メンバーと新メンバー間の引き継ぎが十分ではないことがあげられる。今後は、企画運営の流れのマニュアル化を行い、誰もが企画・運営を行える体制作りに取り組みたい。そして、メンバー間での情報共有の徹底を心掛け、同じ目標に向かって活動する団体を目指していきたい。

<b>◆企画名</b>	<u>Facebook の運営について</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年4月～2019年3月</u>
<b>場 所</b>	<u>Facebook 上</u>
<b>参加者数</b>	<u>20名（ピア・サポート16名、研修生4名）</u>
<b>目 的</b>	

Facebook の利便性を活かした情報の発信を行うことで、KU ブリッジの認知度向上や活動内容のアピールを狙う。

#### 内 容

- 各企画の事業計画書の内容に基づき、1年間 Facebook による情報配信を行った。
- 配信内容は、主に各企画の開催予告や企画終了後の Thank you ポストを投稿した。
- KU ブリッジに親しみを持ってもらうため、メンバーの紹介を行った。

#### 効 果

- Facebook の運用を通じて、Facebook を利用する日本人学生や外国人留学生に向けて KU ブリッジをアピールすることができた。
- 企画当日にやむを得ず発生した中止連絡や集合場所の変更等についても、Facebook を用いて参加者により早く情報を届けることができ、スムーズな企画運営にも役立った。

#### 改 善 点

- 学生全体の Facebook 離れが進んでおり、フォロワーの数が伸び悩んでいる。  
→新たな SNS 運用の必要を感じ、今年度は Twitter を始めたが、次年度以降はそれ以外の SNS 運用についても検討を進めていく。

#### 感 想

Facebook のような SNS を KU ブリッジの活動に用いることは、活動内容や企画の紹介だけではなく、やむを得ず伝達が必要となった事柄を素早く周知できるという点で、大変有効な手段の一つである。その一方で、Facebook アカウントのフォロワーは毎年増加しているが、その程度は僅かなものであり、認知度の向上という観点では、十分な効果は感じられなかった。今後は、Facebook を日常的に利用している学生が減少していることを鑑み、新たな SNS の運用にも前向きに取り組みたい。

◆企画名	<u>Twitter の運営について</u>
日 程	<u>2018年6月～2019年3月</u>
場 所	<u>Twitter 上</u>
参加者数	<u>20名（ピア・サポート16名、研修生4名）</u>
目 的	

Twitter の利便性を活かした情報の発信を行うことで、KU ブリッジの認知度向上や活動内容のアピールを狙う。

#### 内 容

- KU ブリッジとはどういう団体かという説明や、新入生を対象としたガイダンスについて情報配信を行った。

#### 効 果

- Facebook よりも日本人利用者数が多いため、多くの人の目にとまった。
- 他の団体も多く Twitter を利用しているため、繋がりが増えた。

#### 改 善 点

- 現在フォロワーが 100 人未満であり、まだ十分な認知度があるとはいえない。  
→今後、イベントの様子の写真を多く貼っていき、KU ブリッジのアカウントを見た人に興味を持ってもらえるようにする。

#### 感 想

従来の Facebook での活動発信と並行して、より利用者数の多い twitter へ展開を広げたため、さらに多くの人に KU ブリッジの名前を知ってもらう機会が増えた。しかし、まだフォロワーが非常に少ない状況であり、多数の関西大学生に認知されているとは言い難い。今後の活動状況を積極的に投稿していくことが必要である。

<b>◆企画名</b>	<u>ようこそ関大 Festival 2018</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年4月8日（日）</u>
<b>場 所</b>	<u>100周年記念会館</u>
<b>参加者数</b>	<u>113名（ピア・サポート7名、研修生4名、留学生98名、留学生会4名）</u>
<b>目 的</b>	

新入留学生のキャンパスライフが充実したものになるようゲームや昼食の時間を設けることで友達作りのきっかけを作ると同時に、関西大学を知る機会を作る。またKUブリッジ、留学生会の存在を知ってもらい、今後の各種イベントに気軽に参加できるようアプローチする。

### 内 容

- 9:00 全体ミーティング（台本の読み合わせ、変更点など確認事項の共有）
- 9:30 会場設営
- 10:30 参加者受付開始
- 11:10 開会式開始
- 12:00 軽食
- 13:00 アクティビティ1「関大クイズ」および2「紙飛行機飛ばし」
- 13:45 閉会式、写真撮影、アンケートの記入
- 14:00 参加者を校友会スプリングフェスティバルへ誘導、その後は自由解散
- 14:15 当日スタッフは撤収作業
- 14:30 フィードバック、解散

### 効 果

- ・1つ目のアクティビティとして行った関大クイズは、全参加者の共通点を利用した内容であるため、全員で盛り上がることができた。また、クイズを通して楽しみながら関西大学を知る機会となった。
- ・2つ目のアクティビティとして行った紙飛行機飛ばしでは、グループで相談しながら紙飛行機を作った。グループ対抗のゲームにしたため、参加者同士の協力が必要となりグループ内の交流を深めることができた。

### 改 善 点

- ・参加者受付とアクティビティ内でペンを使用する予定であったが、準備した本数が足りず、急遽国際部からペンを借りることになった。  
→必要だと予想される備品を多めに準備する。また、今回のペンのように参加者全員が使用するものに関しては持ち物として持参してもらう。
- ・アクティビティ1の関大クイズの際、参加者が特定の答えに偏ってしまったため、ゲームとしての面白さに欠けてしまった。  
→問題構成を工夫し、難易度に段階を付けて設定する。参加者が予測できないような個人的な問題を入れる。

### 感 想

この企画は、KUブリッジが行う企画の中で最も規模が大きく、準備段階から苦労する場面があったが、当日は滞りなく予定していた行程を終えることができた。準備期間が長期休みと重なるため、ミーティングの日程が合わないなどの難点は避けきれないが、この企画を行うことによって、新入留学生にKUブリッジの存在を知ってもらう絶好の機会になるという点で、これからも継続して行うべき企画であると感じる。

<b>◆企画名</b>	KU バザー
<b>日 程</b>	<u>2018年4月16日（月）～4月17日（火）</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館1階 ピアエリア</u>
<b>参加者数</b>	<u>75名（ピア・サポート4名、研修生3名、留学生68名）</u>
<b>目 的</b>	

本学学生及び職員から提供された、家に眠っている日用雑貨（使用・未使用は問わない）を中心とする物品を、KU バザーの場で本学全留学生に無償提供することで、留学生の生活における利便性向上を図る。

### 内 容

4月16日（月）、4月17日（火）とも以下のスケジュールにて実施した。

12:10 イベント開始

参加者は受付でチェックイン後入場。同時に Facebook への掲載許可を取った。また、スタッフが随時巡回し、物品の説明などを参加者に行い、イベントの様子を写真に収めた。



12:50 イベント終了、撤収作業の開始

残った物品はピアエリアのブース内へ運搬した。その後フィードバックを行い、スタッフ用にオンラインで共有（スマートフォンアプリを使用）し、翌日にその改善を反映できるように準備を行った。また、Facebook ページにイベントの様子をアップロードし、参加者への謝辞とした。

13:00 スタッフ解散

### 効 果

- ・ようこそ関大 Festival2018 での紹介や Facebook ・インフォメーションシステムでの広報効果があり、多くの留学生に参加してもらい、それぞれのニーズに合った物品を受け取ってもらえた。
- ・今までの KU バザーでの経験を踏まえて、事前に物品の仕分けを行い、出品する物品数を増やしきれいな陳列を心がけることで、参加者が物品を選びやすい環境を整えることができた。これにより、例年よりも多くの物品が留学生の手に渡った。

### 改 善 点

- ・当日スタッフが少ないと従来通りの規模では運営が難しいと判断し、場所を変更して例年より規模を小さくした。しかし、1日目は多くの留学生が来てくれたため、少々窮屈な印象だった。  
→今後、当日スタッフの人数が確保できない場合の開催場所に関する方針を検討する必要がある。
- ・メンバーの予想に反し、1日目の KU バザーで物品数が減ってしまい、KU ブリッジが保有する物品の在庫がかなり少なくなった。  
→現在は学生寮や国際部でのみ物品回収を行っているが、今後は物品回収の規模を拡大する必要がある。

### 感 想

今回の KU バザーは、例年よりもたくさんの留学生を迎えることができ、KU バザーの目的を果たすとともに、KU ブリッジ自体のアピールとしても効果があったと感じた。KU バザーは新学期の序盤に行われる企画の1つなので、ここで多くの留学生に参加してもらうことで、その後の企画の参加率向上にもつなげていきたい。

<b>◆企画名</b>	<u>Welcome event with KUBridge</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年4月23日（月）～4月26日（木）</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館1階 ピアエリア</u>
<b>参加者数</b>	<u>14名（ピア・サポート5名、研修生1名、一般学生7名、留学生1名）</u>
<b>目 的</b>	

ミニゲームや動画紹介などを通じて、まだKUブリッジのことをよく知らない学生に活動を周知し、興味を持ってもらうことを目的とする。

#### 内 容

12:10	スタッフ集合
12:20	参加者受付開始 参加者2名につきスタッフを1名割り当て、KUブリッジの説明を行い、参加者からの質問を受け付けた。
12:45	参加者解散
12:50	スタッフのフィードバック
13:00	スタッフ解散

#### 効 果

活動内容を説明し、質問を受け付けたり交流したりすることで、KUブリッジのことを参加者に知ってもらうことができた。

#### 改 善 点

- ・当日参加できるスタッフが集まらず、イベントの日時を変更せざるを得なかった。  
→企画書を提出する前に当日スタッフを確保する必要があった。
- ・参加者があまり集まらなかつた。  
→日程に余裕をもって計画書の作成を行い、広報期間を長く設けるべきであった。

#### 感 想

受付でKUブリッジのポスターを持っていたことで、参加者に場所を分かりやすく提示することができたので良かった。また、新メンバー申込フォームのQRコードをその場で読み取ってもらうことで、新メンバー応募の促進をすることができた。新メンバーにならないにしても、次回の企画に参加者として来てもらう良いきっかけになったと思う。

<b>◆企画名</b>	新緑ハイキング 2018 in 箕面
<b>日 程</b>	2018年5月27日(日)
<b>場 所</b>	箕面大滝
<b>参加者数</b>	31名(ピア・サポート3名、研修生8名、一般学生5名、留学生15名)
<b>目 的</b>	

ハイキングをすることで日本の自然を感じながら日本人学生と留学生の交流を促進する。また、日本の新緑の季節の美しさを楽しんでもらう。

### 内 容

12:45 参加者受付開始	
13:00 阪急関大前駅高架下にて挨拶及びアイスブレイク	
14:30 阪急箕面駅到着	
	箕面駅近くでグループに分かれ、フォトスカベンジャーントの説明を行った。
14:45 箕面駅から滝へ、グループごとに出発	
16:00 箕面大滝での記念撮影後、参加者全員で箕面駅へ徒歩で移動	
16:50 箕面駅到着後、参加者解散	スタッフはフィードバックを行い、今後の企画で反省点を反映できるようにオンライン(OneDrive)上に記録した。また、Facebookページにイベントの様子をアップロードし、参加者への謝辞とした。
17:30 スタッフ解散	



### 効 果

- ・今回の企画はハイキングということで、常に体を動かしながら交流を行うことができ、参加者同士が自然な流れで会話を楽しむことができていた。
- ・山の緑が美しく気候も心地よい初夏にハイキングを開催することで、開催場所は近場であるにもかかわらず非日常を感じることができ、参加者にとってリフレッシュになるひとときを提供することができた。

### 改 善 点

- ・例年利用している箕面の滝へ向かうハイキングコースが工事により通行止めになってしまることが企画開催中に判明し、グループによって異なるコースを歩いていた。  
→グループごとの移動ルートが異なると、到着予定時刻のずれや迷子等のトラブルに繋がる可能性があるため、今回のような場合は企画開催中も代表者を中心に連絡を取り情報共有を行うべきであった。
- ・参加者の中に企画当日のスケジュールが分からず、困っている人がいた。  
→集合時に大まかにスケジュールについてアナウンスし、前もって知らせておく。

### 感 想

今回のイベントは元々雨の予報であったが、当日はなんとか雨が降ることなく無事に開催することができた。ハイキング企画の最も特徴的な部分は、企画中のほとんどの時間で自由に会話を楽しむことができる点である。実際に、今回の企画でも多くのグループが会話を楽しみ、スタッフが仲介することなく場が盛り上がっているように感じた。今後も、このハイキング企画は春学期の恒例企画として毎年実施する価値がある。

<b>◆企画名</b>	<u>デコ巻き寿司体験</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年6月9日(土)</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館1階 グローバルエリア、2階 生協食堂</u>
<b>参加者数</b>	<u>29名(ピア・サポート4名、研修生5名、一般学生9名、留学生11名)</u>
<b>目 的</b>	

一般学生、留学生を交えて巻き寿司を共に作ることで両者の親睦を深めるため。また、留学生には寿司という日本食を身近に感じてもらうため。

### 内 容

#### 【当日の流れ】

- 12:30 スタッフ集合、直前ミーティング
- 12:40 会場設営開始
- 13:15 凜風館1階グローバルエリアで参加者受付開始
- 13:30 自己紹介・アイスブレイク
- 13:55 凜風館2階生協食堂へ移動
- 14:00 デコ巻き寿司体験開始
- 15:00 記念撮影、完成品の試食
- 15:30 アンケート記入
- 15:45 講師・参加者解散、片付け
- 16:15 フィードバック
- 16:45 スタッフ解散

### 効 果

昔から存在する巻き寿司という日本文化と、近年になって出現した「デコ」という日本独特の概念を体験することを通じて、一般学生と留学生の交流を促進した。

### 改 善 点

- ・生協の方との連絡不足により、食堂の準備開始時間が予定より遅れることが当日判明した。  
→メールでのやり取りができなかつたので、前日に食堂へ行き、確認するべきであった。
- ・アイスブレイクを行ったグローバルエリアが狭そうだった。  
→事前にその場所で問題がないかスタッフでシミュレーションを行う。
- ・参加者からの質問等のメールへの返信が遅れてしまった。  
→メールへ返信をする担当者を決めておく。
- ・食堂において、周囲の人々の話し声がうるさく講師の指示が会場の後ろにいる参加者まで届いていなかつた。  
→理解をしていない様子の参加者を確認したら、その都度スタッフが再度説明を行う等のフォローを行う。
- ・講師の迎えのために関大前駅へ向かうのが予定より遅くなってしまった。  
→講師を迎える場合、スタッフの集合時間を20分から30分早く設定して余裕を持つ。

### 感 想

巻き寿司の企画は初めての試みであった。そのため準備期間中はスタッフ全員とても不安であったが、参加者の満足度は高く、当日のイベント中もみんな楽しそうな様子であつたため安心した。食べ物を扱う企画であるならば、これまでミーティングルームを使うことが多かつたが、食堂の方が汚す心配もあまりなく行えるのではないかと感じた。

**◆企画名** 2018年度KUブリッジメンバーサマーハウス  
**日 程** 2018年8月1日(水)~8月2日(木)  
**場 所** 関西大学 高岳館  
**参加者数** 10名(ピア・サポート4名、研修生6名)  
**目 的**

2日間に渡ってミーティングを行い、春学期の運営状況や企画の反省点の振り返り、秋学期以降の改善点について議論する。また、秋学期に実施する企画の内容について話し合い、長期休暇明けの運営体制を整える。更に、宿泊を伴うことでメンバー間の交流を深めることを目的とする。

### 内 容

<1日目>

12:00 関西大学高岳館 入館  
13:00 ミーティング①(春学期の企画の振り返り・秋学期以降の改善点)  
15:00 ミーティング②(秋学期に実施する企画の進捗状況と内容の確認)  
18:00 夕食  
19:00 入浴  
20:30 懇親会  
22:30 就寝

<2日目>

8:00 朝食  
9:00 ミーティング③(企画班ごとに作業)  
12:00 昼食  
13:00 ミーティング④(企画班ごとに作業)  
15:00 関西大学高岳館 退館

### 効 果

- 例年、長期休暇中の運営が滞る傾向にあったので、スケジュールの中に作業時間を組み込むことで、秋学期実施予定の企画の詳細について充分に話し合うことができた。
- 新メンバーの中にはKUブリッジ内で使用するインターネット上のクラウド(One drive)に不慣れな人も見受けられたため、実際に持参したPCを用いて操作方法のレクチャーを行った。必要なスキルをレクチャーすることによって、今後の活動をスムーズに行う手助けになった。

### 改 善 点

- 2日目は昼食後のミーティングからその場で作業や話し合いができるコンテンツが尽きたため時間が余ってしまい、早めに解散することにした。  
→時間が余ることを予め見越した上で、新たな議題等を用意しておく。今回に限っては、すでに長時間の作業や話し合いを行い、疲労の色が出ていたため早めに切り上げることで対応した。
- 既存メンバーの参加者が少なかった。  
→秋学期には既存メンバーが中心の企画もあるので、既存メンバーにも合宿や通常ミーティングに参加するように促す必要がある。

### 感 想

2年ぶりの開催となった今回のメンバー合宿では、主に新メンバーのスキルアップや秋学期に実施予定の企画の準備を行った。宿泊を伴うことで通常のミーティングでは見られないメンバー的一面が垣間見え、メンバー間の仲を深めることができた。長期休暇中の運営が滞ることを防止するためにも合宿は有効であると感じる。

<b>◆企画名</b>	<u>秋学期キャンパスツアー</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年9月13日(木)</u>
<b>場 所</b>	<u>関西大学千里山キャンパス</u>
<b>参加者数</b>	<u>103名(ピア・サポート1名、研修生5名、留学生97名)</u>
<b>目 的</b>	

秋学期から関西大学で学ぶ留学生を対象にキャンパスツアーを行うことで、大学に慣れ、学生生活を円満に送れるようにする。同時にKUブリッジの活動も紹介し、今後のイベントへの参加を呼びかける。

### 内 容

秋学期から関西大学で勉強する留学生に対し、KUブリッジの紹介及びキャンパスツアーを行った。

KUブリッジの紹介は日本語グループと英語グループに分けて、今までKUブリッジが行った活動やこれから行う予定の活動の紹介をした。その後、6グループに分かれ、関西大学の施設の案内を行った。キャンパスツアーが終了した後は図書館の前で記念写真を撮り、凜風館に移動し参加者と昼食を食べながら交流を続けた。



### 効 果

- ・KUブリッジの紹介により、留学生に今までの活動やこれからのイベントのPRができた。
- ・キャンパスツアーを行なったことにより、キャンパス内にどのような施設があるのか留学生に知ってもらうことができた。

### 改 善 点

- ・キャンパスツアーのルート確認が足りず、第1巡目で数分の遅れが発生してしまった。  
→当日スタッフはツアーで通る道順を試しに歩くべきだった。
- ・KUブリッジの紹介の発表準備ができていなかったため、完成度が低くなった。  
→いつまでに仕上げるか期限を決め、KUブリッジ内で事前にリハーサルをする。

### 感 想

春学期とは違うKUブリッジの紹介やキャンパスツアーの案内方式だったが、スタッフ全員が慌てず上手く実施できたと思う。またこれからKUブリッジのイベント紹介や国際部のイベント告知もできて、全体的に成功となった企画だったと思う。次の春学期のキャンパスツアーでは今までの課題を改善し、より良いキャンパスツアーにしたい。

<b>◆企画名</b>	<u>KU Clubs for International Students</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年10月3日（水）～10月5日（金）</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館1階 グローバルエリア</u>
<b>参加者数</b>	<u>28名（ピア・サポート7名、研修生2名、留学生19名）</u>
<b>目 的</b>	

大学での課外活動を希望する留学生に、ニーズに該当する団体の情報を提供するため。また関西大学所属の課外活動団体に、違った文化背景を持つ留学生が参加しやすい環境を整えることで、一般学生と留学生との国際交流をもっと身近なものへとするため。

### 内 容

関西大学の届出団体へ活動参加に対する条件などに関するアンケートを実施し、その回答をまとめた冊子を日本語・英語で作成した。そして上記期間中にブースを設け、作成した冊子を参考にしながら、相談に来た留学生のニーズに合う団体の紹介を行った。

実際に留学生が特定の団体に関心・興味を持ち、団体への見学、体験または入部を希望した場合は、スタッフより団体の担当者へ連絡し、留学生の紹介について確認した。その後、見学などの承諾が得られた場合は、留学生と団体の情報を相互に引き継いだ。



### 効 果

今まで留学生が課外活動への参加を希望する場合は、直接国際部や学生生活支援グループへ相談に行くケース多かったが、本イベントに参加し課外活動について情報を得ることで課外活動への参加がより身近なものへとなるきっかけになった。

### 改 善 点

- ・今回は開催日時を3日間連続でお昼休みに集中して開催したが、その場で活動への参加を決められる人が非常に少なかった。  
→説明を聞いて迷っている人に決定の余裕を持ってもらえるように、週に1回、ひと月の間毎週開催するなどして、開催日時を幅広く設定するよう工夫する。
- ・当日のスタッフに対する説明が不足していたため、スタッフのイベントへの理解がそれぞれ異なった。  
→今回の経験を踏まえて、細やかなマニュアル作りを心掛ける。
- ・今回紹介した団体は届出団体のみだったが、届出団体は参加条件が留学生にとっては厳しく、サークルへの参加の希望者が多かった。  
→留学生の参加へ理解のあるサークル等の団体を募集するなどし、留学生に紹介できる団体数を増やす。

### 感 想

留学生への説明会という形で開催するイベントは初めてだったので、様々な問題点が上がったが、たくさんの留学生が訪れてくれたことから、このイベント自体には需要があることがわかった。まだまだ改善の余地があるので、今回の反省点を踏まえてもっと留学生にとって課外活動への参加が身近のものになっていくように努力していきたい。

◆企画名	<u>KUBridge tour in Rokko～Are you ready to enjoy?～</u>
日 程	<u>2018年10月7日（日）～10月8日（月）</u>
場 所	<u>関西大学 六甲山荘</u>
参加者数	<u>23名（ピア・サポート1名、研修生4名、一般学生8名、留学生10名）</u>
目的	

1泊2日の宿泊を伴うイベントを通して外国人留学生と日本人学生の円滑な交流を促すことを目的とする。また、異文化の人々が一緒に活動、宿泊することで、様々な文化を理解することを目的とする。

### 内 容

#### 1日目

- 9:00 関大前駅高架下で参加者集合
- 9:15 参加者自己紹介、アイスブレイク
- 12:10 関西大学六甲山荘に到着
- 12:50 BBQ開始
- 15:00 ローズウォーク探索、展望リフト（グループ自由行動）
- 18:30 夕食
- 20:30 レクリエーション
- 22:00 就寝

#### 2日目

- 8:10 朝食
- 10:00 関西大学六甲山荘出発
- 12:00 南京町、中華街で食べ歩き
- 14:00 神戸メリケンパーク（BE KOBE）で写真撮影、アンケート記入
- 14:20 メリケンパークにて参加者解散
- 15:00 KUブリッジスタッフでフィードバック



### 効 果

- ・参加者の要望に応えるなど臨機応変に対応することで、普段の企画以上に日本人学生と外国人留学生の交流を深めることができた。
- ・六甲山荘では、畳の部屋での宿泊や浴衣を着る機会があり、外国人留学生の参加者には日本の文化の一部を体験してもらうことができた。

### 改 善 点

- ・BBQ場との連絡に手間取ったため、必要な情報を収集することに時間がかかり、事前書類を計画どおりに提出することができなかつた。  
→予め企画を行うために必要な情報をリストアップし、問い合わせの際にまとめて尋ねられるよう準備することで、外部施設との連絡にかかる手間を減らす。
- ・英語しか理解できない参加者が日本語のアナウンスに戸惑っていた。  
→参加者フォームで自分の日本語能力のレベルを入力できるようにしておき、その回答を見て英語版を用意するか判断する。また使用言語は基本的に日本語ということを予め参加者に伝えておく。

### 感 想

今回の合宿企画では、様々な国にルーツを持つ人が、共に活動し、宿泊するという日常では味わえない体験を参加者に提供することができた。次年度以降も今回の企画で得た経験を活かし、さらに充実した合宿企画を立案できるように努力したい。

<b>◆企画名</b>	<u>KU バザー</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年10月17日(水)～10月18日(木)</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館1階 ピアエリア</u>
<b>参加者数</b>	<u>35名(ピア・サポート2名、研修生7名、留学生25名、一般学生1名)</u>
<b>目 的</b>	

本学学生及び職員から提供された、家に眠っている日用雑貨(使用・未使用は問わない)を中心とする物品をKUバザーの場で本学全留学生に無償提供することで、留学生の生活における利便性向上を図る。

### 内 容

10月17日(水)、18日(木)両日とも以下のスケジュールにて行った。

10:40 会場設営(受付)

有鄰館から物品を運搬、陳列を行なった。

12:10 イベント開始

参加者は受付でチェックインしてから入場した。同時にFacebookへの掲載許可をたずねた。また、スタッフが随時巡回をし、物品の説明などを参加者に行いながらイベントの様子を写真におさめた。

13:30 イベント終了、撤収作業開始

フィードバックし、スタッフ用にオンラインで共有(スマートフォンアプリ)し、翌日にその改善を反映できるように準備を行なった。また、Facebookページにイベントの様子をアップロードし、参加者への謝辞とした。

14:30 解散

### 効 果

- ・留学生活が始まったばかりの留学生たちに対して無償で、実際に春学期まで他の留学生が使用していた生活に役立つ物品(特に衣服など)を提供することができた。
- ・今までKUブリッジに面識がなかった留学生でも、事前申し込みがいらないイベントのため参加がしやすかった。

### 改 善 点

- ・バザーの日時を通知するのが早すぎたため当日に参加者が集まりにくかった。  
→イベントの数日前にリマインドメールを送る。
- ・参加者がどのように使うか分からぬ物品があった。  
→スタッフが事前にどのように使うかを確認する。

### 感 想

初日こそ参加者は少なかったが、全体で見るとたくさんの留学生が物品を持ち帰った。春学期に関西大学を去った留学生が日本において帰ってくれた物品によって、秋学期入学の留学生の日本での新生活が少しでも楽しいものになれば嬉しい。

思い思いに物品を選ぶ留学生の表情を見て、運営スタッフもKUバザーがもたらす効果を実感した。今後も引き続きKUバザーを行っていきたい。



◆企画名 防災について学ぶ  
日 程 2018年11月25日(日)  
場 所 兵庫県神戸市 人と防災未来センター  
参加者数 7名(ピア・サポート3名、研修生3名、留学生1名)  
目的

近年、日本だけでなく、世界中の深刻な災害のニュースを頻繁に目にするようになり、防災について考える機会が増えたとはいえ、未だに他人事のように捉えている人も多くいる。今回の企画では防災という一つのテーマについて模擬体験を交えながら、日本人学生と留学生がともに考えることで、交流を図る機会とする。

### 内 容

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 12:30 | 参加者集合                       |
| 12:51 | 阪急関大前駅出発                    |
| 13:37 | 阪急三宮駅到着                     |
| 13:41 | 三ノ宮(JR)駅出発                  |
| 14:00 | 灘駅到着、移動                     |
| 14:30 | 人と防災未来センター到着、館内見学開始         |
| 17:00 | 灘駅で参加者解散、KUブリッジメンバーでフィードバック |



### 効 果

- ・留学生と共に防災について学ぶことで、お互いの国の災害状況について交流しながら知ることができた。
- ・災害が多い国に住む人間として、留学生も日本人学生も改めて防災意識を持つきっかけとなった。

### 改 善 点

- ・下見では自分達だけで館内を見学し、当日だけ施設のガイドを付けたので、展示物の説明などに時間がかかり、自由に中を見学して留学生と交流するのが難しかった。  
→下見でもガイドを付けるなどして本番と同じような状況を作り、事前準備を万全にする。
- ・企画の告知で詳細が伝わらなかった。  
→ポスター や インフォメーションのお知らせに企画の内容を伝える文を入れる。

### 感 想

当初の計画よりも応募者が少なく、当日のキャンセルも出てしまったため少数での見学となってしまった。しかし、人数が少ない分全員が交流することができ良い面もあった。応募者が少なかったというのは企画内容への関心が薄かったという意味でもあるので、参加者の需要に合わせた企画をこれから考えていきたい。

<b>◆企画名</b>	<u>クリスマスキャンドル作り</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年12月1日(土)</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館4階 小ホール</u>
<b>参加者数</b>	<u>23名(ピア・サポート2名、研修生3名、一般学生7名、留学生11名)</u>
<b>目 的</b>	

キャンドル作りを通して留学生と日本人学生の交流を深め、新しい友人を作るきっかけにしてもらうため。また、クリスマスも近いため、留学生は日本人学生と、日本人学生は留学生と、このキャンドル作りを通じて思い出に残るクリスマスイベントにしてもらう。

### 内 容

- 12:00 スタッフの最終打ち合わせ
- 12:10 会場設営・キャンドル作りの用意
- 13:00 参加者受付
- 13:30 自己紹介・アイスブレイク
- 13:50 クリスマスキャンドル作り開始
- 14:45 ゲーム・記念撮影・挨拶・アンケート回答
- 15:00 片付け・参加者解散
- 15:30 KU ブリッジメンバーでフィードバック



### 効 果

- ・最初から4名1グループを作ったことで交流しやすく、参加者同士が友達を作りやすい環境になった。
- ・キャンドル作りというあまり体験できないことをイベントにしたことで、参加者募集をしている期間中、たくさんの日本人学生や留学生に興味を示してもらえた。

### 改 善 点

- ・アイスブレイクのルールの説明を参加者にうまく伝えられなかった。  
→事前にアイスブレイクのシミュレーションをして、スタッフ全員が理解しておく。
- ・キャンドル作りの時間が長引いてしまい、ゲーム・記念撮影・アンケートの時間が少し短くなった。  
→イベントの始めに、当日の流れやキャンドル作りの時間配分を参加者に伝え、時間内に作り終えてもらうべきだった。
- ・キャンドル作りの時のチーム分けを事前にしていたので、欠席者がいるチームの人数が偏った。  
→事前のチーム分けの時に、当日欠席者が出て対応できるように考えておくべきだった。

### 感 想

キャンドル作りをしたことがない人が多く、募集していた人数の参加者が応募してくれた。講師を招いてのイベントではなく、KU ブリッジメンバー自らがキャンドル作りを教える側だったので、準備期間中はイベントがスムーズに進むか不安だったが、参加者アンケートの結果、満足度は非常に高く、イベント中も参加者みんなが楽しそうにオリジナルのキャンドルを作成しているのを見て、嬉しく思った。

<b>◆企画名</b>	<u>自分だけの年賀状を送ろう</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年12月22日(土)</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館1階 ピアエリア</u>
<b>参加者数</b>	<u>20名(ピア・サポート2名、研修生1名、一般学生7名、留学生10名)</u>
<b>目 的</b>	

毛筆で年賀状を書くことや、百人一首を使って坊主めくりをするという日本のお正月の文化を体験することで、日本人学生と留学生の交流を深めること。また、実際に遠く離れた家族、友人に年賀状を送ることで、学生生活の様子を知ってもらう。

### 内 容

- 13:00 参加者受付
- 13:30 自己紹介、アイスブレイク
- 14:00 年賀状作り開始
- 15:10 ゲーム、プレゼント配布、記念撮影  
おわりの挨拶、アンケート回答
- 15:30 参加者解散、片付け



### 効 果

- ・参加者を来た人から順番にくじで座席を決めて、1グループを4~5人にしたことで、参加者同士が交流しやすくなり、友達の作りやすい環境になった。
- ・グループ対抗で、クイズを行うアイスブレイクをすることで、チーム意識が芽生え、参加者同士の交流が深まった。
- ・参加者手作りの年賀状という、留学生が日常では体験する方法で、遠く離れた家族、友人に送ることによって、学生生活の様子を知ってもらうきっかけになった。
- ・毛筆を使った年賀状作りだけでなく、百人一首を使った坊主めくりや、半紙を使う体験をしてもらうことで、さまざまな日本のお正月文化を知り、かつ参加者同士が交流することができた。

### 改 善 点

- ・イベントを行った場所が騒がしかったため、スタッフの話していることが聞こえにくかった。  
→ジェスチャーを加えて、大きな声で話す。イベントに適した会場を利用する。
- ・参加者に内容を説明する際、「宛名」「半紙」という日本語が伝わっていなかった。  
→普段、留学生が聞くことのない日本語に対しては、日本語で説明をした後、英語で説明をする。また、口頭で説明をするだけではなく、留学生が理解できるように、日本語の解説をしたプリントを配布し、理解を深めてもらう。
- ・片付けの時間を考慮していなかったため、当初予定していたゲームの時間が短くなった。  
→予定している内容を着実に行うことができるのかタイムスケジュールを作り、事前に予測しておく。

### 感 想

年賀状作りだけでなく、日本のお正月の遊びも体験して楽しんでもらえたと思う。不足している準備物もなく、ほぼ予定通りに進行できて良かった。

<b>◆企画名</b>	<u>春学期キャンパスツアー</u>
<b>日 程</b>	<u>2019年3月28日(木)</u>
<b>場 所</b>	<u>関西大学千里山キャンパス</u>
<b>参加者数</b>	<u>75名(ピア・サポート6名、研修生2名、留学生67名)</u>
<b>目 的</b>	

春学期から関西大学で学ぶ交換留学生を対象にキャンパスツアーを行うことで、初めての大学への順応を促し、今後の充実した学生生活につなげる支援を目的とする。さらに、KU ブリッジの活動紹介も併せて行い、今後開催を予定している企画イベントへの参加を呼び掛けることで、KU ブリッジの活動の発展に寄与する。

#### 内 容



春学期から関西大学で勉強する交換留学生に対し、KU ブリッジの紹介及びキャンパスツアーを行った。KU ブリッジの紹介は日本語グループと英語グループに分けて、今までの KU ブリッジが行った活動やこれから行う予定の活動の紹介をした。その後、8 グループに分かれ、関西大学の施設の案内を行いながら、参加者の質問などに答えた。

#### 効 果

- ・KU ブリッジの紹介により、参加者に今までの活動やこれからのイベントの PR ができた。
- ・留学生らと交流することで、親睦を深め今後の活動の礎にすることができた。

#### 改 善 点

- ・台本の読み合わせをしておらず、情報共有がうまくできなかった。  
→当日にミーティングの時間を作る。
- ・配布物の準備が時間ギリギリになってしまった。  
→スケジュールをしっかりと立て、役割分担をきっちり行う。

#### 感 想

それぞれのグループが、キャンパス内を詳しく説明しながら比較的順序通りに進めることができた。また、それぞれのグループでスタッフが留学生らと積極的に交流できた。しかし、書類などの作成に関して、準備不足な面や、役割分担がしっかりと行えていなかつた。事前準備に関しては、もう少し企画担当チームで話し合いをするべきだった。こうしたスケジュール管理、準備不足などの点を次回に向けて改善することが重要である。

## 2.2.3 ピア・スポーツコミュニティ（PSC）

### ■ ピア・コミュニティの趣旨

テーマは、関大生の「絆」。“スポーツ”をキーワードにして、関西大学に関わるすべての人の輪を広げ、相互交流を促進することを目的に活動する。そのため、在学生や卒業生への応援活動を行うことで、関西大学の学生としての帰属意識や母校愛を高め、人との繋がりを築き、より充実した学生生活を送ることができるようなサポート活動を行っている。

### ■ 所属人数

0名（2019年3月末現在）

### ■ ピア・スポーツコミュニティの現状

現在は、部員数が0名のため、活動ができていない状況である。しかしながら、オリンピックやワールドカップを見ても分かるように、スポーツには多くの人を感動させ、勇気づける力がある。学生からの要望を的確に捉え、スポーツを通じて関大生の「絆」を深めていけるような活動を再度企画できるようにしたい。

### ■ 課題

今後、活動を再開するためには、メンバーの募集が最優先である。体育系課外活動団体への入部数が年々増加していることからも分かるとおり、スポーツに興味を持つ学生が多い。それらの学生に、スポーツ行事を行う運営側の楽しさについても感じてもらうことで、メンバーの増加につなげていきたい。まずは、他のコミュニティメンバーの方々の協力を得て、少しづつでも行事を実施していきたい。

## 2.2.4 KUサポートプランナー（KUSP）

### ■ ピア・コミュニティの趣旨

KUサポートプランナーは「素晴らしい活動をしているにも関わらず、発表する場所がない」、「多くの関西大学の学生と一緒に活動したい」、「授業以外の学びの機会を実現、提供したい」と思っている関西大学の学生の思いを形にするコミュニティ。関大生の団体及び個人のアイデア企画を募集し、共同で立案から実施まで行うことや学生の視点を生かした関大生のニーズに沿うようなイベントの発信を行う。

活動を通じて、学年や学部を超えた繋がりを広げ、対人関係能力や自己表現能力などの社会で生きる力を身につけることで、関西大学の多くの学生のキャンパスライフをより良いものにすることを目指している。

### ■ 所属人数

11名 \*1年次2名、2年次2名、3年次2名、4年次5名（2019年3月末現在）

### ■ ミーティングの概要

原則1週間に1回

### ■ ピア・コミュニティ内の連携

連絡や情報の共有については、メーリングリストとSNS（LINE）を活用することで、会議やその他の連絡が行われていた。特にSNS（LINE）について、メンバー同士で食事に行くなど、メンバー間の交流を促進するためにも活用した。改善すべき点として、メンバー全員が参加できる会議の日程、時間がないことである。履修を決定する前から、早い段階で日程を決定し、できる限り全員が会議に出られるように努力すると共に、会議に参加できなかったメンバーへのフォローが求められる。

### ■ ピア・コミュニティ間の連携について

他コミュニティの方に企画に参加してもらうことが多くあった。しかし、ピアエリア等で他コミュニティのメンバーと交流するメンバーがいる一方で、普段はピアエリアにいないメンバーについては、他コミュニティのメンバーと交流がないメンバーもいた。個々のメンバーの交流を増やすことで、コミュニティ間の連携促進につなげていきたい。

### ■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援母体である。密なコミュニケーションが取れていた。企画の募集について多くの支援を得られたことで、一般学生の目に多く触れることができたため、企画に多くの方に参加してもらうことができた。また、企画の計画時やKUSPの運営についてもアドバイスをいただいたことで広い視野で考え、事前にリスクを減らす対策を行うことができた。

### ■ 昨年度の課題の改善点

昨年度からの課題の1つであったメンバーの少なさについては、今年度も同様に課題として残っている。しかしながら、今年度は年間を通して来年度以降の募集方法や広報について意見を出し、今後改善策を実行していく方向となっており改善を見込んでいる。また、昨年度の課題の当日のキャンセルについては、事前のリマインドメールの回数を増やすことを通して、一定の解決につなげることができた。

**◆企画名** 関大生協×KUSP料理企画第10弾 料理ビギナーズ大集合！～春野菜の

ペペロンチーノ～

**日 程** 2018年4月25日(水)

**場 所** 総合学生会館凜風館2階 生協食堂

**参加者数** 16名(ピア・サポート4名、研修生1名、一般学生11名)

**目 的**

本企画は実家暮らしで料理が得意ではない学生や、健康的かつ実践的な料理のことを知りたい一人暮らしの学生などに向けた企画である。また他学部の学生と共同で料理をすることで、学生同士の交流も目的とする。

**内 容**

関大生協の方のご協力のもと、ピア・サポートも含め全4班に分かれ、ペペロンチーノの作り方を教えていただいた。はじめに、関大生協の方に前で実演していただき、その後、参加者がその工程に沿って料理を行った。

**効 果**

- ・料理が得意な人、不得意な人がいたので、互いに教え合うことができた。
- ・1回生同士でも仲良く話すことができており、新たな友人作りのきっかけになった。
- ・参加者が関大生協の方に気軽に質問することができ、関大生協をもっと身近に感じることができた。

**改 善 点**

- ・参加者募集を開始してから1週間は参加者がなかなか集まらず、対応策を考えるのに時間がかかってしまった。
- ・準備物を関大生協に届けるのが前日になってしまったので、前もってしっかり確認しておくべきだった。
- ・食事をする時の班を決めておくべきだった。
- ・受付係、カメラ担当、司会など、KUSP内の詳しい役割分担を決めておくべきだった。

**感 想**

- ・参加者がなかなか集まらず、最初のうちは参加者募集にかなり苦戦した。しかし、関大生協の方のご協力もあり、無事参加者が増え、本当に良かった。
- ・KUSPの課題でもあったドタキャン問題も今回はほぼなく、これは3日前からのリマインドメールが効果を及ぼしたものとみられるので、今後も継続していきたい。

**◆企画名** もう大事な場面で失敗しない！！スピーチのプロが教える、緊張克服のためのメンタルトレーニング教室

**日 程** 2018年5月30日（水）

**場 所** 総合学生会館凜風館4階 ミーティングルーム

**参加者数** 24名（ピア・サポート3名、研修生1名、一般学生20名）

**目 的**

大学生活をおくる中でプレゼンテーションや就職活動、新しい出会いや環境など緊張する場面は多くある。この企画を通して緊張のしすぎを克服することで自信を持ち、本来の自分の力を発揮し、より明るく豊かな学生生活がおくれるよう支援する。

#### 内 容

一般社団法人あがり症克服協会より講師の方をお招きし、あがりのメカニズム、緊張を抑える体作りについて講演していただいた。講演の後、実際に体を動かしながら緊張を解す方法について学んだ。

#### 効 果

- ・参加者からは、これから学内での発表が多くなることもあり、自信が持てたとの声をいただいた。
- ・参加者同士で仲良く話すことができており、新たな友人作りのきっかけになった。
- ・参加者が講師に気軽に質問することができ、講師の方にも親身に相談に乗っていただけていた。

#### 改 善 点

- ・当日の欠席が多く、講師の方に迷惑をかけてしまった。
- ・備品利用や資料準備に関して、講師の方へのヒアリングが上手くできておらず、開催日が近づいてから対応することになってしまった。
- ・座席を指定するべきだった。

#### 感 想

- ・当日の欠席が他の企画よりも少し多く発生した。リマインドメールなども送信していく結果であり、今後は申し込みの際に電話番号を聞くなど連絡をとれるようにして、当日の欠席をなくす仕組みを導入したい。
- ・企画終了後にも、講師と参加者の間で活発な会話が行われており、非常に良い雰囲気ができていた。

<b>◆企画名</b>	<u>「お昼を食べながらピアについて知りませんか？」第一回 ピア・カフェ</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年12月13日(木)</u>
<b>場 所</b>	<u>総合学生会館凜風館1階 ピアエリア</u>
<b>参加者数</b>	<u>11名(ピア・サポート4名、一般学生7名)</u>
<b>目 的</b>	

本企画は、今後の企画や活動の為に学生ニーズの収集を行うものである。  
お昼休憩の時間を利用して昼食を食べながら、各ピア・コミュニティの活動や企画を紹介すると共に、参加者同士やピア・サポートとの交流を通してピアの概念を知ってもらいながら、学生ニーズを把握し、今後の活動の参考にすることを目的とする。

#### 内 容

凜風館1階のピアエリアを貸し切り、昼食を食べながらピア・コミュニティの活動を紹介し、参加者と交流した。

#### 効 果

- ・本企画の実施を通して、KUSPをはじめピア・コミュニティの活動について参加者に知ってもらえた。
- ・当日参加を可能にしたことにより、参加者が気軽に参加することができた。
- ・参加者同士やKUSPメンバーとの交流もはずみ、次回以降も参加したいという意見が多くかった。

#### 改 善 点

- ・企画の意図がわかりにくく、参加者に参加する利点を明確に伝えられなかった。
- ・学生ニーズの把握という本企画の説明が不十分であり、参加者から十分にニーズを集めることができなかつた。
- ・参加者から実施場所がわかりにくいとの意見があり、より詳細な場所案内が必要である。

#### 感 想

- ・参加者同士の交流も多くみられ、参加者には企画を楽しんでもらえ、次回以降も参加したいという意見も多くいただけた。
- ・企画の意図や詳細があまり参加者に伝わっておらず、ニーズ把握も十分な結果が得られなかつたため、企画の広報文章の内容や参加者にとっての利点について見直したい。

## 2.2.5 KUコアラ

### ■ ピア・コミュニティの趣旨

KUコアラは、関西大学の学生の図書館利用促進を目指すため、学生の視点から、図書館での特集本展示や講習会といった企画を行うコミュニティである。主な活動は、開催時期に合ったテーマの特集本展示や、講演会の実施・運営である。

### ■ 所属人数

23名 \*1年次3名、2年次11名、3年次3名、4年次6名（2019年3月末現在）

### ■ ミーティングの概要

定例会議 同一内容で週2回

### ■ ピア・コミュニティ内の連携

定例会議時に各企画の進行状況や問題点を共有し合い、全サポートで現在進行中の企画の状況を理解できるように心がけている。また、各自で記録を残しているだけでは、情報の非対称性が問題となる可能性があるので、メーリングリストのアプリケーションを利用することで、最低限の情報の共有を行っている。その他にも、クラウドサービスを利用することによって、先輩方が残してくれた資料を参照することができるようしている。

### ■ ピア・コミュニティ間の連携について

特に今年度は、他のコミュニティとの交流を多く行うことができた。具体的には、ピア・コミュニティ合同新歓を行い、他のコミュニティと協力し合ったことや、他のコミュニティの企画に参加することも増えた。様々な刺激を受け、ピア・コミュニティ全体にいい影響がみられるよう感じる。今後は、関西大学ピア・コミュニティとして全体意識を持つとともに、他大学との交流を深めることが重要であると考える。

### ■ 教職員との連携について

図書館事務室が支援母体であり、活動予定があれば、逐一担当者がメールで連絡を取ることになっている。その他にも、定例会議後には議事録を作成し、情報共有を行っている。

### ■ 昨年度の課題の改善点

今年度は、ピア・コミュニティ初の試みであるピア・コミュニティ合同新歓を行い、新歓期間にブースの設置や看板を作成し、多くの新入生にピア・コミュニティを周知させることができた。しかし、KUコアラとしての広報に力を入れることができなかつたため、昨年度と比べて入会するサポートが減少した。今後は、今年度入会したサポートへの情報共有や細かい仕事の引き継ぎを行い、具体的な活動について浸透させつつ、関大生へのKUコアラの広報を行っていく必要がある。

<b>◆企画名</b>	<u>特集本展示 第1回「ひとり暮らし編」</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年5月9日(水)～5月23日(水)</u>
<b>場 所</b>	<u>関西大学総合図書館2階 開架閲覧室</u>
<b>参加者数</b>	<u>15名(ピア・サポート14名、研修生1名)</u>
<b>目 的</b>	

- ・本学の学生に図書館へ足を運んでもらうこと。
- ・新学期が始まり、ひとり暮らしを始める学生に対し、生活に必要な情報を提供する。
- ・この展示を通じて、授業以外の日々の生活においても、図書館が情報収集の拠点であることを認識してもらう。

#### 内 容

新学期が始まり、忙しくなる学生の手助けをするため、「ひとり暮らし」をテーマとして特集本展示を行った。中でも、料理についての本を多数紹介し、本学の学生の健康的な生活の支援を目的とした。

また、アンケートを設置し、あわせて前回の特集本で紹介した本の書誌事項と所在記号を掲載したコアラ通信を配布した。

#### 効 果

- ・展示期間中に26冊中13冊が借りられた。レシピ本はそれ以外の本に対し貸出率が約2倍であったため、内容によって貸出回数に偏りが見受けられた。
- ・今回対象としていたのは、ひとり暮らしをしている学生であったが、ひとり暮らしをしていない学生の利用も多く、図書館が授業以外の日々の生活においても便利な場所であると周知できたといえる。

#### 改 善 点

- ・今回の展示期間は2週間と短めであったため、貸出回数が少なかった。次回からは1か月など少し期間を長くした方が良いと考える。
- ・展示用書架の最下段の本の貸出数が0冊であったため、排架に工夫を凝らすべきだった。最下段に本を置かずに済むように事前に展示用書架の大きさを確認し、展示する本の冊数を調整する必要がある。

#### 感 想

上記のとおり、料理のレシピ本以外の貸出率が低かったため、テーマを「料理」に絞るべきだったと思う。それにより、テーマが「ひとり暮らし」の場合よりも対象となりうる学生を増やすことができるからである。しかしながら、主に対象としていた層以外の利用も多かつたので、そこは素直に喜びたい。

今回レシピ本以外の本の貸出数が少なかつたが、その理由として表紙がシンプルなもののが多かつたことが挙げられる。そのため対応策として、本のタイトルを記したカードを作成し、該当する本の横に設置したが、内容を伝わりやすくするためにPOPを作成した方が利用者の目に留まりやすかったのではないかと思う。

また、企画担当班の意見として、仕事量に偏りがあるのではというものが挙げられた。そのため、次回からはより均等に仕事を割り振るようにしたい。

<b>◆企画名</b>	<u>電子ブックサービスのPR小冊子の配布</u>
<b>日 程</b>	<u>2018年6月18日(月)～9月30日(日)</u>
<b>場 所</b>	<u>関西大学各学舎授業支援ステーション、関西大学総合図書館、高槻キャンパス図書館、ミューズ大学図書館、堺キャンパス図書館</u>
<b>参加者数</b>	<u>16名(ピア・サポート14名、研修生2名)</u>
<b>目 的</b>	

2018年春学期より開始された電子ブックの試読サービスの利用の促進を図るため、電子ブックの使い方・活用方法をまとめた小冊子を配布し、利用方法を全キャンパスの関大生全体に周知する。

### 内 容

<6月18日>

「電子ブック使い方講座」の案内を載せた小冊子を、関西大学各学舎授業支援ステーション（各15冊）、関西大学総合図書館（80冊）、高槻キャンパス図書館（30冊）、ミューズ大学図書館（30冊）、堺キャンパス図書館（30冊）に設置する。

<6月28日>

講座が終わったので、講座の案内を載せた小冊子を各設置場所から回収し、案内を載せていない小冊子を設置する。

<9月30日>

電子ブック試読サービスの終了に伴い、小冊子を各設置場所から回収する。

### 効 果

電子ブック PR 冊子を総合図書館だけでなく、他キャンパスでも配布したので、キャンパスを問わず、電子ブックの宣伝ができた。また、各授業支援ステーションでも配布をしたので、多くの関大生の目に留まり、より多く配布するができた。

### 改 善 点

当初、電子ブックの文面の画像を利用する際に著作権が発生することを失念していた。また、今回のような PR 冊子の作成自体初めての経験であったため、作成期間が予想以上に延びてしまい配布開始時期を延期してしまった。

### 感 想

今まで KU コアラとしてコアラ通信やポスターの作成など、様々な活動をしてきたが、PR 冊子の作成は新たな試みであった。そのため、作成までにかかる日数のめどが立たない、実際の電子ブックの文面の画像を使うため、著作権の問題が発生するなど、いくつも問題があった。しかし、多くの方々の助けがあり、なんとか企画を成功させることができ、たくさんの関大生に作成した PR 冊子を配布することができた。

今後は今回の経験を活かし、様々な活動に取り組みつつ、PR 冊子作成のような新たな企画にも積極的に取り組みたいと思う。

**◆企画名** 電子ブック使い方講座  
**日 程** 2018年6月27日(水)  
**場 所** 関西大学総合図書館 ワークショッピングエリア  
**参加者数** 22名(ピア・サポート12名、研修生5名、一般学生5名)  
**目 的**

- ・電子ブック使い方講座を通じて、参加者に電子ブックの利点や使い方を周知する。
- ・本企画への参加を契機に、電子ブックに親しんでもらい、enjoy ebook everyday の利用を促進させる。
- ・電子ブックの利用を通じて本の良さを知ってもらい、関西大学総合図書館の利用率を向上させる。

### 内 容

総合図書館内のワークショッピングエリアにて、参加型講座を開催した。はじめに、図書館事務室の方より、電子ブックの概要について説明があり、その後紀伊國屋書店、丸善雄松堂の担当者の方からそれぞれの電子ブックの特徴と使い方について説明していただいた。また、適宜質問時間を設けた。

### 効 果

- ・電子ブックを利用したことがない参加者が半数だったことから、電子ブックに親しんでもらう契機になったと考えられる。
- ・アンケートの回答では、参加理由が「内容に興味があったため」の人が一番多かったので、本学学生のニーズに合った企画ができたと分かる。
- ・参加者の7割以上の方が、本企画に「非常に満足」「ある程度満足」と回答していたので、電子ブックの利点や使い方を周知できたと思われる。

### 改 善 点

今回の講座は、KU コアラメンバーの時間の都合により、授業数の少ない水曜日の開催となった。また、5限目という比較的遅い時間帯ということもあり、一般学生が参加しづらい日程となってしまった点を改善すべきだと思う。これを改善するためには、開催日時を先に決めてから主な担当者を決定するという対処法が考えられる。

また、当日になって、タブレットが電子ブックに対応していないことが判明し、「実際に使用して使い方を覚えてもらう」という講座のメリットが失われてしまった。このようなことがないように、事前にリハーサルを行うなどの準備を徹底することが大切であると痛感した。

### 感 想

今まで私たちの代では行ったことのなかった参加型企画で、書店員の方にご協力いただいて作り上げる企画であったため、何に気を付けどこに気を配れば成功するのかということや、打合せの段階でどのようなことを聞いておけば当日スムーズに企画を進めることができるのかということなど、手探りのことが多かったように思う。特に、リハーサルをしっかり行わなかつたことが、参加者の方にご迷惑をおかけした原因となったと考えられるので、今後同じミスをしないようにKU コアラメンバー全体に周知していきたい。

アンケートの結果では、7割以上の人に満足だというように回答してもらえたので少し安心したが、どちらともいえないと回答した参加者の方もいたので、より満足度の高い企画を実施できるよう精進していきたい。

**◆企画名** 特集本展示 第2回「旅行」  
**日 程** 2018年6月28日(木)～7月19日(木)  
**場 所** 関西大学総合図書館2階 開架閲覧室  
**参加者数** 16名(ピア・サポート12名、研修生4名)  
**目 的**

前回実施した特集本展示でのアンケートを参考に、娯楽方面に合ったアプローチを通して、本学学生の図書館の利用率向上を目指す。

#### 内 容

内容に関しては国内外を問わずに収集し、国内と国外に分けて展示を行った。国外情報の展示については、中に留学に関する本の区画も作っておいた。また、学生に図書館で寛いでもらうために美麗な写真集を多めに展示した。

特集本企画の恒常的な利用のために、前回の特集本を掲載したコアラ通信も作成したが、以前の企画では残部が多く出てしまったため、今回は部数を抑えておいた。

#### 効 果

展示期間中に17冊中7冊が借りられた。今回の特集本企画では、提供した冊数が少なかったことを念頭に置いたとしても、利用頻度は多くはなかったと述べられる。

#### 改 善 点

アンケートの回答の中には、「大きくて借りる気になれない」という意見があったので、次回以降特集本の選定には形状も勘案すべきであると判明した。また、やや見切り発車の進行であったので、事前告知が足らなかったと認識している。おおまかな進行計画を予め作成しておく必要がある。

#### 感 想

前回企画を担当したときの課題であった、予定通りの企画進行とKUコアラメンバーの参加人数の増加を、今回は概ね達成できたことが一番うれしいことであった。

ただし、前回よりも上手く運営できたのに対して、貸出冊数は大幅に落ち込んでしまっていた。需要側のニーズを理解することが重要だということを痛感できたことは、ある意味ではとても良い経験だったのではないだろうか。

## 2.2.6 KU サポーターズ

### ■ ピア・コミュニティの趣旨

KU サポーターズは、“仲間同士の助け合い”をキーワードに、学生による学生のための学生相談を実施している。大学生活における些細な悩みや問題について誰かに話を聞いてもらいたい時や、悩みがあるけれど誰に相談してよいかわからないという時に、学生相談室と連携してサポートを行っている。また、年に数回講演会やワークショップなども開催している。

### ■ 所属人数

2名 \*1年次0名、2年次0名、3年次1名、4年次1名（2019年3月末現在）

### ■ ミーティングの概要

不定期で行っている。

### ■ ピア・コミュニティ内の連携

KU サポーターズ用に作成されたマーリングリスト（ML）や本学の SNS、Google ドライブのクラウドサービスにおいて、連絡や情報の共有を行っている。

### ■ ピア・コミュニティ間の連携について

代表者を中心に他のピア・コミュニティとの活動情報の共有を行っている。

### ■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援母体であり、活動場所と物理的距離が近いため、日々相談を行っていた。

### ■ 昨年度の課題の改善点

今年度も引き続き活動メンバー募集の難しい状況が続き、現状に至る。今度の方針について隨時支援部署と協議を重ねていく予定である。

**◆企画名** コミュニケーション講座  
**日 程** 2018年6月8日(金)  
**場 所** 第2学舎2号館 C506教室  
**参加者数** 7名(ピア・サポート1名、一般学生4名、職員2名)  
**目 的**

本講座は大学生活に慣れつつある新入生や友達作りに悩んでいる学生にむけて、より良いコミュニケーションスキルを身につける機会となることを目指す。

### 内 容

- ① エクササイズI 「普段の自分の話し方、聞き方について考えてみる」
- ② レクチャーI 「思考と行動について」
- ③ レクチャーII 「コミュニケーションの仕組み」
- ④ レクチャーIII 「アサーション」
- ⑤ エクササイズII 「アサーティブな自己表現」
- ⑥ レクチャーIV 「まとめ」 思いを伝えるポイント

### 効 果

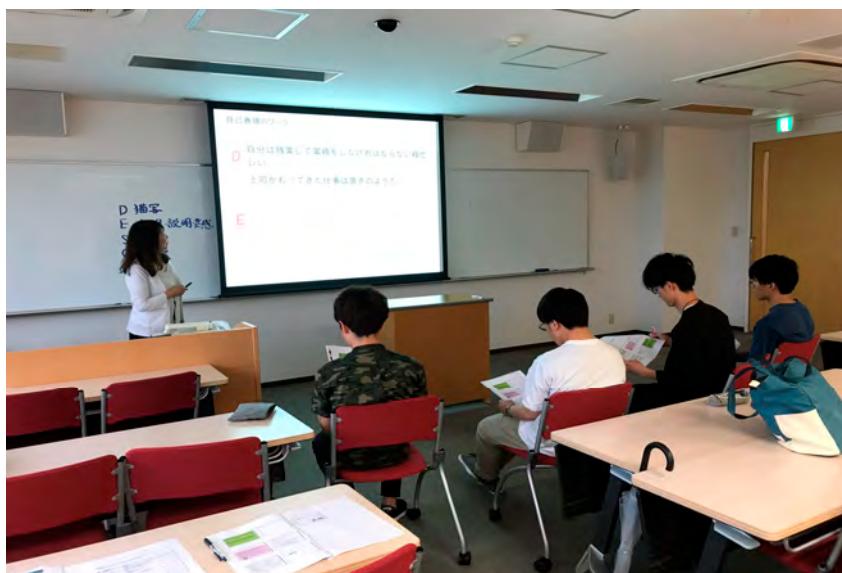
参加者の方から、「人間関係の構築方法を学ぶことができた」「コミュニケーションの基礎概念を知ることができた」などの声をいただけたため、コミュニケーション能力を向上させる機会を与えることができたと感じる。

### 改 善 点

今回はコミュニケーションの基礎をテーマにしていたため、参加者アンケートの中には「もうちょっと実践的な濃い内容のものが良かった」という声があった。次回実施する場合は、より実践的なテーマで行い、さらに企画の広報キャッチコピーを工夫するといった改善策を講じたい。

### 感 想

本講座は大学学生相談室の植並先生にご協力いただき、運営は主にピア・サポート1名で実施した。今回の企画は事前の打ち合わせも当日も円滑に進めることができたが、もう少し規模を大きくできたと感じている。



## 2.2.7 ぴあかんず

### ■ ピア・コミュニティの趣旨

ぴあかんずは、知られていない関大生の苦労や努力などのドラマを発掘して、SNS 等の web 媒体を通して伝えていくことで、関西大学への関心を深めてもらうことを目指している。また、その姿を見て学生の意欲を促進させることにつなげる。

### ■ 所属人数

5名 \*1年次0名、2年次0名、3年次0名、4年次5名（2019年3月末現在）

### ■ ミーティングの概要

週1回（曜日は随時調整）

### ■ ピア・コミュニティ内の連携について

今年度ぴあかんずを再始動させることになったことから、新しいぴあかんずをどのような団体していくかについてミーティングを重ねるなど、組織の基盤作りに注力した。

### ■ ピア・コミュニティ間の連携について

2週間に1度開催される代表者会議に出席し、他のピア・コミュニティに所属するピア・サポートとの交流を行っている。そこで情報共有を通して、参考意見をもらうことでぴあかんずの活動に反映している。

### ■ 教職員との連携について

ボランティア活動支援グループの教職員から助言をいただいて活動を行っている。今後も適宜教職員と意見交換をしながら、学生主体の質の高いピア・サポートを目指していきたい。

### ■ 課題

現在、所属しているピア・サポートが4年次しかおらず、メンバー募集を早急に行わなければならない。また、ぴあかんずの基盤作りに注力したため、実際の広報には満足に取り組めていない。今後は、新たなピア・サポートの募集に努めるとともに、より関大生の活躍を知ってもらえるように日々の活動を行いたい。

## 2.2.8 関西大学ITピア・コミュニティ“i.com”

### ■ ピア・コミュニティの趣旨

関西大学ITピア・コミュニティ“i.com”（以下、「i.com」とする）は、“Do IT!（ITしようぜ！）”をキャッチコピーに、ITスキル（主にパソコンを利用し、映像・Web・ポスターなどを作成する技術）を行使し、関西大学の学生に技術支援する活動を行う。具体的には、「Microsoft Office」や画像編集ソフト「GIMP」の使い方を教える講習会の開催や、ワンポイントアドバイスをまとめた小冊子を作成し、学内で配付する活動などを実施してきた。

### ■ 所属人数

0名（2019年3月末現在）

### ■ i.comの現状

2015年度からサポートが不在となり、活動休止状態に陥った。

支援体制は維持し、活動を希望する学生のために、できる限りの支援を行う体制を整えている。

### ■ 課題

活動を再開するためには、何よりもまず活動希望者の獲得が不可欠である。i.comのサポートとして活動することの魅力を発信するなど、メンバー募集に力を入れるとともに、活動が再開した場合も軌道に乗るまでは、活動におもしろさややり甲斐を感じられるよう、教職員・TAが積極的に支援を行う必要がある。

## 2.2.9 関西大学学生 PR チーム SUGaO

### ■ ピア・コミュニティの趣旨

関西大学学生 PR チーム SUGaO（以下、「SUGaO」という）は、関西大学の魅力を学生ならではの目線で社会に向けて発信するコミュニティ。関大の「おもしろい情報」「おすすめスポット」「ユニークな人」、関大周辺の「おいしい店」などを紹介するビデオを作成し、動画サイトへアップロードしたり、WEB、SNS を利用し関西大学の“まだ知られていない”情報を発信している。

### ■ 所属人数

24名 \*1年次2名、2年次4名、3年次14名、4年次4名（2019年3月末現在）

### ■ ミーティングの概要

週1回

### ■ ピア・コミュニティ内の連携について

2018年度に結成したコミュニティであり、困難も多いが、多くの学びややりがいを感じている。「チームの心をひとつに」をモットーに、クレド（信条統一）を作成し、楽しく活動を行っている。

### ■ ピア・コミュニティ間の連携について

代表者会議に出席するメンバーだけが、他のコミュニティとの交流がある状態である。今後は、他のコミュニティが企画するイベントに参加したり、SUGaO の活動にも参加してもらうことで、交流を深めていきたい。

### ■ 教職員との連携について

アドバイザーとして社会学部の高増教授や、総合情報学部の谷特別任用教授に助言をいただきながら活動を行っている。また、支援部署であるボランティア活動支援グループとも連携しながら、よりよい活動となるよう取り組んでいる。

### ■ 課題

結成したばかりのコミュニティということもあり、年間予定や個々の役割など詳しく決まっていないことが多い。そのため、メンバーが「やる気」を持って取り組めば何でもできる活動ではある。しかし、気力がなくなってしまうと活動がストップしてしまう恐れもあり、伝統を作り、つなげていくためには、スタートのエネルギーが必要不可欠と考える。

## 2.3 ピア・サポートからのメッセージ

雲外蒼天

ピア・コミュニティ運営本部 明石尚也

大学生になってすぐにインフォメーションシステムのお知らせを眺めていると、ピア・コミュニティ運営本部のメンバー募集を見つけました。その内容を読んで、「関大生が関大生を支援する」というキャッチコピー、そして入試誘導や入学式誘導をしているということにとても魅力を感じました。入試誘導には思い入れがあり、私が受験生だったころ、大学の入試本番の日に構内であたふたしていると、誘導をしている学生が話しかけてくれ、試験会場まで連れて行ってくれたという経験がありました。この経験がメンバー募集の文章を見た時にはっきりと思い出され、私もこんな大学生になりたいと思いガイダンスを受け、今では運営本部の副代表になっています。

副代表になってからは、色々な困難がありました。まず、一緒に活動するピア・サポートが減ってしまったことです。今年度は1回生も2回生も途中で人数が減ってしまいました。なぜこのような結果になってしまったのかを、TAさん、職員さん、そして先輩方と話し合い1つの結論が出ました。それは、昨年度までと同じ企画を繰り返しているだけで、面白みに欠けるということです。先輩が作ってくれた道を踏み外さないように進んでいるだけなので、自分たちで新しい企画を作る楽しさを感じることができていないことに気が付きました。そこで、新しい道を歩み出す1歩として、春合宿でスポーツ大会をしようと企画しています。今この文章を書いている段階では、まだ成功しているかどうか分かりませんが、この原稿が掲載されている報告書を読んでいる時に、成功したと胸を張って言えるよう企画作りをしっかりとしていきたいです。

次に、ウィンターワークの失敗です。例年のウィンターワークは2、3回生が企画・運営し、1回生と他のコミュニティのメンバーが参加者でした。しかし、今年度は1回生が中心となって企画を考えてみようということで、1回生主体のウィンターワークにしましたが、いつもより他のコミュニティの参加者が少なく、企画が中止になってしまいました。今後このようなことがないように、他のコミュニティの企画にも顔を出すなどし、友好関係を築き、互いの企画に参加しあえる関係を作っていきたいです。

このような困難があった一方で、学んだこともたくさんありました。その中でも私が一番学び、スキルアップしたと感じることは話すスキルです。副代表という立場になったことで、毎週の会議の司会をしたり、職員さんと話したりする機会が増え、それに伴い話すスキルが身についたと感じています。

困難や苦労を乗り越えていき、試練を達成すればその先には快い青空が待っています。快い青空にするためにピア・サポート、TAさん、職員さんと一致団結してピア・サポート活動を続けていきたいです。

(経済学部 2年次)

## KU ブリッジ

KU ブリッジ 蔡清恒

私は KU ブリッジに所属しています。まず、私が KU ブリッジに入ったきっかけを述べたいと思います。実は、私は KU ブリッジに入る前に、ピア・コミュニティについて全く知りませんでした。入学当初、留学生オリエンテーションが行われ、その時に、4月のはじめに「ようこそ関大」というイベントが行われると聞いて、当時周りに友達がいなかつた私は、これは友達ができるチャンスだと思い、すぐに応募しました。最初、このイベントは国際部の主催と思っていましたが、イベント当日に学生スタッフに聞いてみると、KU ブリッジという団体が企画したイベントとのことでした。そこから、KU ブリッジが国際交流のイベントを企画している団体だと知り、私ももともとイベントの企画をやってみたいと思っていたので、参加者にとって楽しい思い出になるようなイベントを作りたいと考え、それがきっかけとなり、KU ブリッジに入り、ピア・コミュニティの世界に飛び込みました。

ピア・コミュニティについて全く知らない私は、はじめ何でピアの研修に参加しなければならないのかと研修を面倒くさがっていました。しかし、一度参加してから考えが 180 度変わりました。最初に受けた研修は「ピア・サポートって何だろう?」という研修で、ピア・サポートの歴史などの話を聞いて、KU ブリッジが行っている企画は誰かのためになると認識させてくれました。その他にも、コミュニケーションやプランニング、自己理解の研修で毎回今までにない新しい発見がありました。この 4 つの研修を通して、ピア・コミュニティで活動していく上で必要な土台を作りました。

KU ブリッジのイベントは多くの国から来た人たちとかかわる機会があり、イベントごとに違う参加者が来てくれます。KU ブリッジの活動理念としてはイベントに来てくれた日本人学生と留学生の交流するきっかけを作ることです。私たちスタッフは、常にどうしたら初対面の日本人学生と留学生が自然に交流できるのかを考えています。イベントで仲良くなり、その後も交流を持つことができれば KU ブリッジにとってこの上ないことだと考えています。

ピア・サポート活動の中で一番印象に残っているイベントは、私が企画班として準備した合宿企画です。初めて会う出身国がバラバラの 23 人が、六甲山で一泊二日するイベントは、まさに交流として最高の形なのではないかと思います。合宿は普段の企画よりも事前準備が多く、とても大変だった部分もありましたが、結果として、私たちが考えたアイスブレイクをはじめ、スタッフのみんなの努力で、参加してくれた人同士はかなり自然に交流することができました。参加者からも楽しかったという声をたくさんいただき、その後も参加者同士で交流を持つ人がいると聞き、大変うれしく思いました。これからも関大生のために良いイベントを作っていくことを思っています。

(政策創造学部 1 年次)

## 「私の活動記録」

KU サポートプランナー 山田 岳

私がピア・コミュニティに入ったきっかけは、入学当初、学生に役立つイベントを企画し、実行するようなボランティアを行いたいと思っていたからです。高校時代、私は生徒会活動をしていました。その活動を通して多くの人と触れ合い、自分たちで企画し、実行することの楽しさを見つけました。そこで是非とも大学でも同じ活動をしたいと思い、偶然インフォメーションシステムのお知らせで発信されていた KUSP のメンバー募集を見つけ、私のやりたいことと重なり入会しました。

KUSP に入ってからは、講演会などの企画を立案するところから始めました。最初の頃は少し戸惑うことが多かったです。例えば、企画した講演を行ってもらう講師を自分たちで見つけ、自分たちで連絡を取ることです。目上の人に対してのメールの書き方など、今まで全く知りませんでした。でもこの活動をすることによって、目上の人に対してのコミュニケーションの取り方を学ぶことができました。

ピア・サポート活動で印象に残っている活動を 2 つ挙げます。1 つ目はお昼の時間を利用し、みんなでお昼ご飯を食べながら交流することを目的に行った「ピア・カフェ」です。計画をした当初は、参加者が集まるかどうかといった不安もありましたが、当日は数人集まり、普段触れ合うことのない他学部や、上回生の方と交流することができました。参加者同士が初対面だったので、私たちメンバーが積極的に参加者に話かけるようにし、話しやすい雰囲気作りを心掛けました。初めて自分が企画を考える段階から携わった企画なので、印象に残っています。実施後、参加者から実施場所が分かりにくかったという声が上がったので、イベントの告知ポスターなどに地図を取り入れるなど改善し、いずれ第 2 回を実施したいです。

2 つ目は、全てのコミュニティが参加した 9 月の合同合宿です。合宿が行われるまではピアの研修以外、他のコミュニティの方とあまり交流したことありませんでした。しかし合宿中のアイスブレイクやワークを通して、他のコミュニティのメンバーの顔を覚えることができました。また、1 泊する予定だった合宿が、台風の影響で急遽日帰りになったことも印象に残っています。これからも合宿といった他のコミュニティと交流する場を KUSP でも企画して、もっと一緒に活動ができたらいいなと思います。

高校までは、文化祭などで企画した出し物は先生に頼ったりすることが多かったのですが、KUSP の活動では自分たちで講師の方を見つけたり、資料を全て用意したりと、自分の行動に責任を持つ場面が多く、責任感が身につきました。このようにピア・サポート活動を通して成長することができました。これからもピア・サポート活動を一生懸命頑張りたいと思います。

(社会学部 1 年次)

## KU コアラの一員になって得たもの

KU コアラ 仮屋美穂

私が KU コアラに興味を持つきっかけになったのは、ある授業でした。その授業は司書課程に含まれるものの中一つで、そこに KU コアラが新入生勧誘に来たのです。そして、大学図書館と連携し「学生目線で図書館の利用促進を目指す」という KU コアラの活動指針を知りました。大学に入学した時、4年間のうちに興味があることは色々チャレンジしたいと考えていたので、入会することに決めました。

それでは実際に活動し、気づきを得たことについて述べていきます。まず初めに言えることは、本コミュニティの活動指針が大学図書館の利用促進ということもあり、分かりやすい成果を得ることが難しいという点です。それゆえに、結果によってはやりがいを得ることが他のコミュニティより少ないのではないかと思います。しかし、より良い企画にするために、積極的に自分の意見を主張し、地道に成果を見出していました。また、自分の班の企画が通った時や、参加型の企画で応募が来た時、アンケートで思うような結果が出せた時など、分かりやすい結果は出なくても、自分が KU コアラとして活動してきたことが実を結んだ瞬間は確かなやりがいを感じます。

KU コアラの活動を通じて得たものは、やりがいの他にもいくつかありますが、特に大きいのは責任感だと思います。KU コアラでの活動は、メンバーだけでなく図書館事務室の方、時には学外の方など多くの人と連携して企画を運営するものです。そのため、自分が任された作業が遅れたり、内容にミスがあったりするとその企画に関わる多くの人の迷惑になってしまいます。そのような意識の下で活動を行うことで、自分に任された事に対する責任感を強く持つようになりました。

これまでの活動で特に印象に残っているのは、初めて計画書を書いた時のことです。「ひとり暮らし」というテーマで本の特集を組み、春の忙しい時期の関大生を少しでも応援できればと思って行いました。反省点としては、テーマで利用者を狭めてしまったことや、本のラインナップが料理本に偏ってしまったこと、棚の大きさの確認が不十分であったため、利用者が閲覧しづらい段にまで本を置いてしまったことなどがあります。後日先輩から指摘され、いかに考えが足りなかったかを痛感しました。この時の経験を踏まえ、今後はより冷静に多方面から物事を捉え、より良い企画を作っていくたいと思っています。

(文学部 2年次)

## KU サポーターズ

KU サポーターズ 野口暁

こんにちは、KU サポーターズの野口です。

かれこれ、1年生の秋に KU サポーターズに入会してから 2 年近く経ちました。

もう 2 年近く経ったと考えると、時が経つのは早いなあと改めて感じます。

さて、この度このメッセージを書かせていただくにあたって、まずはこのコミュニティに入ったきっかけから書きます。

入会のきっかけは、1年生の秋に、大学に入ったからには勉強以外のことも何かしたいと思ったことです。

その時、同じコミュニティに同級生はおらず上回生も少ない中で、入って 2 カ月ほどでいきなり代表職になるという少し異例の出来事があるなど、印象にすごく残っています。

それまでの人生では周りの方に引っ張ってもらってきた身であったことから、様々な不安が積み重なって落ち込んだこともあります。

ですが、そんなこともしていられないと思い、周りの助けもあって、徐々に運営を回していくようになりました。

今思うと、なぜあのような些細なことで悩んでいたのかと呆れる部分が多々あります。

ただ、私めがピア・ソーターのみなさんに助言できるようなこととしては、「分からなかつたら誰かに聞く」ということです。

当たり前のことかと思うかもしれません、このメッセージを読んでいただいている方の中には、自分に変なわだかまりがあって人に聞くことに抵抗があるというような方もいらっしゃるかもしれません。

自分に余裕が無い時、追い込まれている時ほど、「自分」という視点しか持てないようになります。

もしも、私みたいな状況に陥ったら、まず周りの友達や仲間などに伝えてみて、その上で目の前の課題を一個一個解決していくことに励んでいくください。

(商学部 3 年次)

## 今しかできない失敗を

関西大学学生 PR チーム SUGaO 岡田光莉

SUGaO は、2018 年 4 月に発足し、1 年を迎えたばかりの関西大学学生 PR チームです。社会学部の高増先生や、総合情報学部の谷先生（越前屋俵太さん）がアドバイザーとして全面的にバックアップしてくれています。

関関同立、近大に関して行われた、リクルートマーケティングによる高校生からのイメージ調査（2015 年）で、先進的な・おしゃれな・個性的な・上品な・真面目なという項目において、関西大学が一番低いイメージになってしまいました。しかし、私たちはそんなことはないと胸を張って言えます。問題なのは、関西大学の本当のイメージが高校生に伝わっていないことです。それを何とかしようと考えてスタートしたのが、このプロジェクトです。

立ち上げ当時、私は大学 2 年生の春休みでした。他の部活に入っていたり、専門のゼミでは 3 年生からやりたいことも決まっていたため、SUGaO に力を費やす時間があるか不安な気持ちを抱えながら活動に参加しました。当初は、団体名を決めるところからロゴ作り、今日やることなど、0 から 1 を作り出す初めての作業ばかりで試行錯誤する日々の連続でした。普通の部活なら、毎年やることが大体決まっているため、マニュアルに沿ってその年で様々なことに挑戦する余裕があります。しかし私たちの土壌は私たちが作っていくしかありません。何が本当に正しいのかが分からぬけどとりあえずやってみる！という活動が続きました。

そんな中、失敗したことがあります。私たちは高校生に対して関大のイメージをアップするという最終的な長期目標にとらわれすぎて、短期的な目標を掲げていませんでした。そのために、高校生に見てもらいたいコンテンツ作りをすることはできていたのですが、「具体的に何人にアプローチしたい！」や「どうしたらメディアに取り上げてもらえるか」など、届けるための工夫ができていなかったのです。そこから、自分たちが高校生の時に大学の情報を集める際、何をしていたかを改めて考え、メンバーの多くがインターネットで「関西大学」と検索していたことから、WEB ページを作る方針が定まりました。

私たちは、まだまだスタートラインに立ったばかりです。しかし、スタートラインに立つまでに費やした時間の中で、得たものは大きかったです。目標を達成するためにみんなで意識を統一する「クレド」を作成したり、長期目標だけでなく短期目標を作つて実現可能な取り組みを考えたりしました。そして、「時間がない」は言い訳で、なんとか作ることができたと振り返って思います。興味があることができるチャンスは絶対に掴んだ方がいいです。大学生だからこそ思い切って挑戦することができます。失敗しても立て直すことのできる環境があります。この環境を作ってくださった、関西大学の教職員の方々に感謝の思いを抱きながら、これからも大学生らしく！関大生らしく！PR 活動を続けていきたいです。

（社会学部 3 年次）

## 2.4 支援部署職員からのメッセージ

### 様々な経験の積み重ねによる成長と社会の縮図

ボランティア活動支援グループ 小川 隆行

2018年度で11年目を迎えた「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」によるピア・サポート活動。今年度、ボランティア活動支援グループに配属され、ピア・コミュニティ全般の活動支援及び、ピア・コミュニティ運営本部と新しく誕生した関西大学学生PRチームSUGaOの支援部署担当をさせていただきました。

前配属部署は同じ学生センター内の部署ではありましたが、ピア・サポート活動とは初めての出会いとなりました。そこで、ピア・サポートの気持ちや想いをどのようにすれば感じ取れるかという考えのもと、先入観なく極力学生の目線で支援に携わり、学生と一緒に様々な経験をし、一緒に成長できればと思いました。

ピア・サポート研修、スキルアップ講座や学生支援室TAのピア・サポートへの支援を実施する側から経験し、私自身新しい発見や気づきがあるとともに、学生にとっても大変有意義な内容であると感じました。

私自身が感じた発見や気づきは同じく学生も感じていることだと思います。支援部署担当者として、そうした学生自身の発見や気づきを大切にして、検討事項や課題に対して直接的な答えを与えるのではなく、学生が考える力を伸ばせるような対応を心掛けました。

学生同士の助け合い、学生が学生をサポートするという活動の中で、ピア・コミュニティにおいて自分たちの理念やルールを作成し、サポートされる学生側のニーズを把握し、企画を検討し実行するというプロセスは正に社会の縮図だと思います。先輩から受け継いだものを仲間たちで共有し、さらに後輩へその想いを引き継いでいく、このような活動の継続は様々な経験の積み重ねによる成長に繋がり、社会に出た後も多種多様な場面で活躍できる人材育成に繋がる教育活動だと思います。

最後に、「ピア＝仲間」というように、仲間同士の繋がりが、さらに新しい仲間をつくり、助け合いの幅も広がっていくものと思います。そんな仲間同士の繋がりや連鎖を今後10年、20年と継続していくように、立場が変わっても直接的でも間接的にでも支援していきたいと思っています。

## 新人職員とピア・サポート物語

図書館事務室 西本香世

第一印象は「KU コアラって?」「なんだか楽しそうなことをしているな」という漠然とした、でもどこかわくわくする感情が沸き上がってきたのを覚えています。私自身、関西大学職員 1 年目の新人であり、大学で働くということを全く理解していない状態で担当したため、学生と直接接することのできる立場にあることだけが、ただただ嬉しかった 4 月でした。「KU コアラに関するここと、私の業務担当の項目にこの言葉が並んでおり、学生と仕事ができる期待感と、しっかり学生たちをサポートし導くことができるのか、そんな不安な気持ちとが混ざり合った状態で最初の頃は打ち合わせに参加していました。

想像以上に学生は様々でした。ベテラン社会人のようなしっかりと事業計画書を書き上げ、打ち合わせの受け答えも完璧、正直私の方が情けない状態もありました。そうかと思えば、どこか間の抜けた雰囲気を持ち（KU コアラメンバーごめんなさい）、さらに事業計画書の不完全さもあいまって、「これは本番大丈夫か?!」と心配になることもありました。ですが、それらは全て需要と供給のバランスなのだと気付きました。ピア・サポート同士の助け合いも立派な活動の一部だからです。そもそも学生は不完全であって素晴らしい存在なのです。大人は、現実を見て先を読み、できることできないとの判断をすぐに出してしまうように思います。彼らにそんな思考は今の段階では必要なく、やりたいことを明確にすること、そしてチャレンジする行動力が将来の人生に必要な経験であり、結果失敗しても「経験すること」の大切さやその価値は学生時代の宝物になると思うからです。もしかしたら、その大切な瞬間を、大人目線から摘み取ってしまっていたかもしれない、今更ながら反省しています。また「ピア・サポートとは学生による学生の支援」とあるように、それがまさに実践されている環境でした。KU コアラの学生は、純粋に関西大学の図書館が好きです。そんな図書館へ今よりもっと多くの学生に足を運んでもらうため、また個々の学習の利益となるよう図書館の魅力を伝え、その先には図書館自体の活性化に繋がるとして活動してくれていました。図書館を利用するには学生であり、もっと学生目線の意向を反映できる支援部署でありたいと思う瞬間がたくさんありました。

この報告書を通して、自分のしてきた対応や指導は学生たちにとって少しでも利益が生まれたのか、活動の力の一つになれたのか、そういう観点からも振り返っていく、良いきっかけを頂いたように思います。実際仕事を行っている最中は新人ということもあります、目の前の課題をクリアしていく事務的作業が中心となってしまい、学生の姿を本当の意味で見守り支援ができていなかったと思います。私は関西大学の職員となるまでの十年間を、教育現場とはかけ離れた環境で働いてきました。だからこそ、イベントの企画を一から立ち上げていく活発な学生のそばで働けたことは、私にとって関西大学で働く喜びと、やりがいをもたらしてくれました。本当にありがとうございました。

## 変革の年～巣立ち～

学生生活支援グループ 村上晋

KU サポーターズは、「仲間同士の助け合い」をキーワードに、関大生の学生生活におけるちょっとした悩みやつまずきなどを、同じ関大生の目線でサポートしたいという理念に基づき 2009 年度に設立され、今年度で 10 年目を迎える団体です。

大学内での人間関係が上手に構築できず、「大学内に安心できる居場所がほしい」、「誰かに話を聞いて欲しい」という学生に対して、学生目線で身近に話を聞くことができる“ほっこり相談室の運営”を主軸に活動してきました。

順風満帆にみえた本活動ですが、利用率は年々減少し、ピア・サポータ同士の衝突（ピア・サポート活動に対する思いのすれ違い）によるスタッフ数の減少などにより、存続の危機に追い込まれました。ほっこり相談室を利用する学生がいない=活動の成果が表れたと捉え、静かに幕を閉じる選択肢もありました。しかし、ピア・サポータ自身が学び・実践したこれらのノウハウを、何らかの形で還元したいという強い思いから、ほっこり相談室を廃止し、オープンスペースでの活動へ踏み出していった変革の年が、10 年目となる今年度でした。

私は、学生相談・課外活動団体支援を行う当部署に配属されて 3 年目となる職員です。私自身、学生支援に関する専門的な資格を持っている訳でもなく、学生対応において決まったマニュアルがある訳でもなく、“指導”ではなく “支援” はどのようにすれば可能なのか？ “職員” と “学生” という壁を超えたコミュニケーションはどうすれば可能なのか？など、日々悩みながら正解もわからずに学生と向き合ってきました。そんな中、KU サポーターズに出会い、ピア・サポート活動という学生による学生支援の活動現場から大切なことを学ぶことができました。それは、コミュニケーションとは、自分の気持ちや意見を、相手の気持ちも尊重しながら、誠実に、率直に、そして対等に表現するアサーティブな関係であり、一方的な押し付け（指導）ではなく、分かり合う（相互理解）ことが大事であるということです。職員と学生という関係だから、人生の先輩だから、何か良いアドバイスを “しなければならない” という一方通行の関係ではなく、話を聞き、理解し、共感することが大事であるということを気付かされました。

9 年間ほっこり相談室を運営し、実績を積みあげた当団体は、10 年目の節目に巣から大空へ飛び立って行きました。私自身が気付かされた以上に、彼らの活動は学生の皆さんへ必ず良い刺激をもたらすものと確信しています。しかし、学内での活動場所や有効な広報手段、さらなる飛躍のための方法の模索など、我々職員の協力を必要とする場面も多々あります。彼らがもっと高く、力強く飛び続けるためにも、その方向を見失わぬように、継続したサポートが必要と考えます。そして何よりも、これらピア・サポート活動を通して、ピア・サポータ自身がより成長し、将来の糧となることを期待しています。

### **3 学生支援室の活動報告**

### 3.1 学生支援室の役割と主な活動

学生センター内に設置されている「学生支援室」では、ピア・コミュニティの支援等（ピア・サポートの研修を含む。）を行っている。

ここでは、TA（ティーチング・アシスタント）が中心となり活動を行っており、上述の全般的な補助業務とともに、ピア・サポートに対する助言を、教職員とともに協働して行っている。また、学生と大学がうまく連携できるように橋渡し的な役割も果たしている。

2018年度に特筆すべき活動としては、オブザーバーとして、全コミュニティのメンバーが対象となる「ピア・コミュニティ夏合宿」に参加したことや、2017年度に引き続きシニア・サポート実施の企画およびミーティングに参加したことが挙げられる。また、継続的・安定的に学生支援室の機能が果たせるようするため、新規TA研修の実施に加え、日常においても引き継ぎの連携の強化に力を注いだ。

これらを通して、今後も継続的そして発展的にピア・サポート活動を行っていくために必要となる知識・スキル等の共有や伝承を行い、さらにはピア・サポート活動支援に携わる人同士の繋がりを強めることができた。

TAは、学生を支援する関わりが深いため、その果たす役割は大きい。また、ピア・コミュニティ支援を行うには、ピア・サポートに関する専門的知識やピア・コミュニティに対する理解等が必要となるが、教職員については、役職者の変更や人事異動による交代が避けられないことから、質的・量的に十分なピア・コミュニティの支援を継続的に行うためには、TAの存在が重要となる。

TAと教職員の連携をさらに強化しつつ、ピア・サポート活動を学生たちと共に育む機関の一つとして、今後も学生支援室を継続して運営していく所存である。

### 3.2 新規 TA 研修

#### 1 実施の経緯

学生支援室 TA は、本学のピア・サポート活動において、ピア・コミュニティの活動支援やピア・サポートからの相談対応、ピア・サポート研修の実施等、非常に重要な役割を担っているが、それらの対応は、TA 各自の研究活動や支援活動で得られた経験則に依拠して行われてきた。

しかし、TA にも世代交代があることから、今後も継続的に安定したピア・サポート活動支援を行っていくためには、TA としてピア・サポート活動支援を行う際に必要となる基礎的な知識や技能、姿勢についての研修プログラムを策定し、習得できるようになる必要がある。これに対応するため、多くの TA の協力を得て 2013 年度から準備を行い、2014 年度から「新規 TA 研修」として実施している。

#### 2 目的

学生支援室 TA として、ピア・サポート活動支援を行う際に必要となる基礎的な知識や技能、姿勢を身につけることを目的とする。

#### 3 参加者

学生支援室 TA（継続 TA についても、受講者または講師として参加）

ボランティア活動支援グループ職員

※一部プログラムについては、ピア・コミュニティ支援部署職員も参加

#### 4 概要

研修項目・方法について、2017 年度に実施した「新規 TA 研修」をベースとしながら、TA に求められる資質や、新規 TA が不安に感じていることなどを話し合い、優先順位が高いと思われるものから講義・ワークを実施した。

#### 2018 年度 新規 TA 研修

研修項目	方法	実施日
ピア・サポートの理念	講義・書面	5 月 18 日
ピア・コミュニティと支える人々	書面	—
TA としての心構え	講義	4 月 10 日
コミュニティ支援（担当コミュニティについて知る）	書面・日常	—
コミュニティ支援（サポートとコミュニケーションをとる際の大事なところ）	日常	—
コミュニティ支援（コミュニティ活動の流れ）	講義・日常	5 月 22 日

研修項目	方法	実施日
コミュニティ支援（会議）	日常	—
コミュニティ支援（企画）	ワーク	6月21日
コミュニティ支援（書類作成）	書面・日常	—
担当部署職員との連携	日常	—
TA同士の連携	日常	—
自己理解・他者理解	ワーク	9月6日

## 5 所 感

今年度、TA6名のうち2名が新規採用で経験が浅いという状況であったが、現状の規模としては、学生支援室を運営するにあたって6名が妥当な人数であると感じている。また、個々のTAの資質や、学生支援室全体としての連携・協力、またこれまでのTAが遺してくれた「新規TA研修」を始めとする資料・プログラム等のおかげで、学生支援室としての役割を効率的に果たすことができた。

本研修はその意義・効果とも十分に認められるものであると考えられるが、支援活動を行いながら研修を行うのは時間的にもキャパシティ的にも難しいところがあり、研修（講義・ワーク）として想定していた内容すべてを実施することはできなかった。

本学においてピア・サポート活動に継続的・発展的に取り組んでいくために、シニア・サポート制度を導入したとはいえ、TAからの支援が重要であることに変わりはない。学生支援室全体やTA個人にとって過度の負担とならないよう配慮する必要があるが、TAによる様々な支援の質を維持・向上させていくために、引き続き、TAとミーティングを定期的に実施しながら、新規TAに対する資質向上の研修プログラムを行い、学生支援の充実に向けて取り組んでいきたい。

### 3.3 学生支援室 TA からのメッセージ

TA としてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 佐藤栄晃

今年度のピア・コミュニティへの関わりについて、コミュニティ支援と学生支援室の運営の 2 つの観点から振り返る。

- ・ コミュニティ支援について

今年度も昨年度から引き続き運営本部と KU サポートプランナーの活動に関わってきた。どちらのコミュニティも、基本は現在まで先輩たちが積み上げてきた企画やコミュニティの運営のあり方を踏襲し、活動を行っている。しかし、ただ踏襲するだけでは、現在のニーズやサポートのモチベーションから乖離してしまっているのではないかという危惧も持っていた。今年度は、新しい企画への挑戦やコミュニティの運営の仕方・今までの活動の問題点の洗い出しなどを行い、1 年を通して改革をしていくことという動きもあった。私自身、10 年を超えて活動しているピア・コミュニティの動きについて、マンネリ化や思考の凝り固まり（例えば、合宿はスキルアップや勉強の場である）などを心配していたが、サポートも同じく現状を疑問に感じ、よりよい方向に向けるよう考えていたことを知り、ピア・コミュニティはまだまだ成長できると期待を感じた。特に現状だけでなく、次の世代のためになにができる、なにが残せるかということを考えている点については、今後もぜひ続けていってほしいことである。

- ・ 学生支援室の運営について

今年度もシニア・サポートとの交流を深めるためシニア・サポートミーティングに参加した。サポートと TA の 2 視点から、現在のピア・コミュニティに必要であると考えられる能力や、考え方について意見交換できることは有意義な時間であったため、今後も続けて行きたい。また、シニア・サポート企画の他大学交流会で、他大学の先生や職員さんとの交流ができたことも有意義な経験であった。

ピア・コミュニティの TA は入れ替わりが激しいため、学生との関係が出来上がったときに交代となるケースが多く、悩ましいことである。学生支援室の運営については月 1 度のミーティングで、各コミュニティでの TA の関わり方については今までそのコミュニティを担当していた TA が伝えることが多い。しかし、TA 同士がミーティングで話せるタイミングが合いづらい場合や、前担当者がいない場合にはコミュニティに馴染むまでに時間がかかる。この問題に対し来年度は、TA が TA のために行う研修や、新規 TA との交流ができる時間を両者無理がないように増やしていきたいと考えている。

## TAとしてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 竹本拡右

私が TA としてピア・サポート（以下、「ピア」とする）に関わって約 1 年が経ちます。その中でも特に印象に残っている事柄を 2 つ挙げたいと思います。

まず 1 つ目は、「関西大学ピア・サポート研修」です。ピアについて考え直す大きなきっかけになりました。私自身、初めてピアと接点を持ったのが大学院進学後でした。しばらくは、なんとなく TA として活動する期間が続きました。私のピアに対する見方が漠然としすぎていたためです。しかし、12 月にピア・サポート研修のコミュニケーションを担当することになり、以前の研修などを振り返り、自分なりにピアについて詳しく調べることを始めました。その結果、全てのピア活動はコミュニケーションをとることから始まるということを伝えたいと思い、研修に挑みました。その後、ピアを含め多くの場面で積極的にコミュニケーションをとるようになったところ、活動が円滑に進んだり、齟齬が少なくなったりしました。あの時研修で伝えたかったことが、今では私自身のピア活動の核とも呼べるものになっています。今後も研修ではもちろん、私自身が率先垂範してコミュニケーションをとることの大切さを示していくことができるよう努めます。

2 つ目は、京都で開催された「ピア・サポート学会」です。ピアについての知見を広げるきっかけになりました。学会に参加してみると、全国から数多くの参加者がいました。また、ピア活動は大学という現場に限らないことを知ることができ、今では修士論文もピアを関連づけて進めていきたいと考えています。ピアに関わる学生ともコミュニケーションをとる機会があり、相談できる仲間も増えました。私の中のピアという概念が、タテ・ヨコに広がった 1 日となりました。

今後は今まで以上にピアに積極的に関わり、少しでも関西大学のピア・サポートが発展するように貢献したいです。私は現在の関西大学のピアが抱える課題を、学内における「認知度」だと考えています。（私見です）「関大には、人がいる」のスローガンにもあるように、それぞれに個性がある学生が 3 万人もいながらも、ピアに関しての認識が不十分な学生が多いことは、大学・学生にとってもったいないことでしょう。数が多ければ良いというものではありませんが、私がそうであったように、ピアについて十分な認識を持たずに学生生活を過ごす学生が多いように感じます。そのため、私は 3 月に北海道で行われる、全国の大学からピア・サポートに関わる学生や教職員が集まる「びあのわ」に参加し、広報の手段について学ぶつもりです。足を運んで得たことを関西大学に持て帰り、反映することができたらと思います。この 1 年間で得たことを胸に、より実りのある 2 年目を実現するために尽力します。

## TAとしてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 並木崇浩

私は今年度でピア・コミュニティの TA となって 3 年目となった。TA となった当初から担当していたコミュニティが KU サポーターズであったので、特に KU サポーターズとの関わりについて振り返ることとする。今年度の KU サポーターズの活動は困難が多かったように思われる。メイン活動であったほっこり相談室のあり方を変えていくことが昨年度より決まった。つまり、相談室での相談ではない支援を目指すこととなつたが、その形はなかなか定めることはできなかつたといえる。TA として学生らを支えきれなかつたという自己反省を含め、その要因をいくつか考えてみる。

まずは、心理的支援の構造の重要性が挙げられる。心理的支援には様々な方法、例えば相談支援を行う場として個室という閉ざされた環境や、より開かれた環境といった外的な構造の違いがある。この構造は心理支援のあり方に大きく影響していることが改めて理解できた。入りやすい場所にすることで、利用しやすいと思う学生もいれば、利用しにくいと思う学生もいる。他の学生が入る可能性がある環境にすることで、話題が制限されるともいえるし、学生が扱える範囲内に抑えることができるともいえる。このように、構造によって利用者の層や相談のレベルが変わるために、入念に考えるべき内容である。だが、相談室での相談をやめることが決まってから、ではどのような構造で支援を行うかが不明瞭のままとなつてしまっていた。これは学生だけで考えきるには難しいものであり、TA や職員を含めて議論する時間を設けるべきであった。

次に、心理的支援の意味を KU サポーターズが考えることの必要性である。そもそも心理的支援とは何か、自分はその行為に何の意味があるのかを考える必要があると私は思う。この間に答えるには教科書に書かれている知識だけでは足りない。例えば人が人と話すといつても、友達同士や家族、学生と教職員など様々な関係があり、一対一や集団といった人数の違い、雑談や悩み相談、議論など話し方も多種多様である。この様に日常生活で当たり前に行われている話すという行為を、支援者と利用者とで行うことにどのような意味があるのか、ただ話すだけではない（ときにただ話すことにこそ意味がある場合もあるが）、何か意味があるからこそ支援といえるのである。これは個々人が実感を伴つて学んでいくことでしか身につかないと私は考えている。しかし、日々の活動やトレーニングなどの機会が少なかつたため、この学習が実践できなかつたことも反省すべき点であろう。

心理的支援とは目に見えない要素が多く、言語的に説明が難しい側面があるが、やはり私は学生の支援には欠かせない要素だと思っている。困難な状況ではあるが、今後も KU サポーターズの活動が継続していくことを願い、振り返りを終えることとしたい。

## TAとしてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 宮原悠希

### 1年を振り返って

1年を通して、ピア・サポートとどのように関わっていくのかを考え続けたように思います。授業の関係でピアエリア待機にあまり入れないこともあり、ピア・サポート研修や各コミュニティの企画が唯一顔を合わせる機会であったため、なるべく参加するようにし、ピア・サポートと接する機会を持つようにしてきました。以下、コミュニティ支援と、合宿・企画参加での関わりについて振り返りたいと思います。

### コミュニティ支援での関わり

元メンバーというご縁から、KU サポーターズを担当させていただきました。KU サポーターズが活動内容や指針を新たにしていく年ということもあり、形式にとらわれない関わりが求められていたように思います。ピア・サポートとのやりとりを大切にしながら、必要とされる支援や関わりを、その場に応じて考え、行ってきました。1年目の TA ということもあり、至らぬことが多く、ピア・サポートのみなさんには迷惑をかけることもあったように思いますが、ピア・サポートがどのような状況にあるのか、ピア・コミュニティで何をしたいと思っているのかなど、少しづつですが理解できたように思います。

### 合宿・企画での関わり

合宿や企画への参加で、普段なかなか接することのないコミュニティのみなさんと関わることができ、合宿や企画を運営するピア・サポートの頼もしさを感じ、また、ピア・サポートが考えていることを知る機会となりました。さらに、企画では、一般参加の学生の声を知ることができ、学生のニーズという点で、TA としてピア・コミュニティに関わる際の参考になりました。

### 来年度の目標

今年度は授業等の都合からピアエリア待機に入る機会が少なく、心残りです。ピアエリア待機は様々なコミュニティのピア・サポートと、ざっくばらんに関わることのできる貴重な機会であり、ピア・サポートにとっても、TA と気軽に話が出来る大切な機会だと思います。来年度はピアエリア待機でたくさんお話しできればと考えています。

## TAとしてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 保田義之

今年度は学生支援室 TA として 2 年目をむかえ、引き続きピア・サポート活動に関わらせていただきました。私は、ピア・コミュニティの活動内容については昨年度よりも理解が深まっていると感じました。一方でまだ知らないことも多かったので、ピア・サポート研修やスキルアップ講座にはできるだけ積極的に参加し、継続的にピア・サポート活動について理解を深めることを心がけました。私は TA としてこの 1 年、特にピア・サポート研修とコミュニティ支援に多く関わることで、改めて学びや気づきが多くありました。

### 【関西大学ピア・サポート研修】

私は、昨年度に引き続きコミュニケーション研修の担当をさせていただきました。研修のワークを通して、私自身も自分と相手の立場それぞれについての考え方や、円滑なコミュニケーションを進める方法など、改めて学ぶことが多くありました。また、研修生のみなさんのコミュニケーションに対する意識や能力はさまざまなので、まずコミュニケーションに対する認識が変わり、楽しいものと感じてもらいたいと考えました。さらに私自身がコミュニケーションに苦手意識を感じていた経験から、コミュニケーションの難しさを知っているからこそ、これからピア・サポートになるみなさんにその大切さや向き合い方を伝えようと心がけました。研修生のみなさんと一緒に試行錯誤しながらコミュニケーションについて学べた、そんな時間だったと思います。

### 【コミュニティ支援について】

私は昨年度に引き続き KU ブリッジに関わらせていただきました。今年度は昨年度よりも KU ブリッジの活動内容について理解が深まり、コミュニティメンバーのみなさんと打ち解けてきたこともあります。円滑にピア・サポート活動を支えることができたと感じています。主に企画書類のチェックとコミュニティ会議の参加といった陰ながらのサポートでしたが、職員さん、先輩の TA やピア・サポートに支えられながら、少しでも自分の経験をピア・サポート活動に役立てたらという思いで尽力しました。また KU ブリッジは、留学生の学生生活の充実を目的に、日本人学生と留学生が共に活動・交流する貴重な機会を提供しています。毎年新たな取り組みにチャレンジしており、今後がさらに楽しみです。

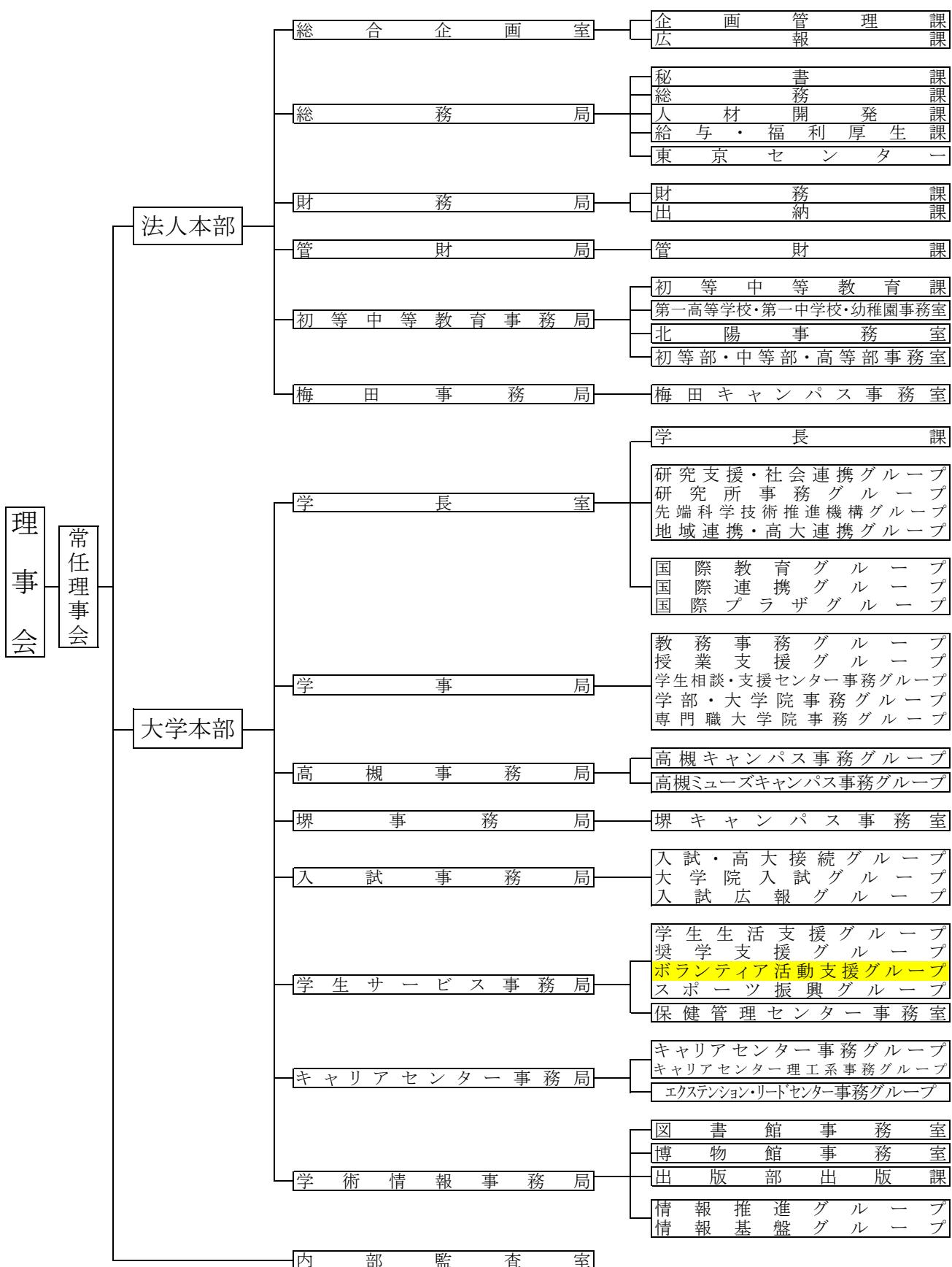
これまで TA として関わらせていただき、ピア・コミュニティのみんなで一つの目標に向かって、やりがいや困難を感じながら共に創り上げていく活動は改めて素晴らしいと感じました。このピア・サポート活動の支援で得られた経験を今後も活かしていきたいです。

# 參考資料

## 【参考資料1】

2018年度 事務組織図

2018.4.1



## 【参考資料 2】

### 学生支援プログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」に関する取扱内規

平成 23 年 4 月 1 日制定

#### 1 趣旨

この内規は、平成 19 年度文部科学省による、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの採択を受けたプログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」の取組継続を受け、その取り組みに対する支援方策等を講じるため、その運営等に必要な事項を定めるものとする。

#### 2 目的

学生が求める学生支援を学生自らが実践することを目指した「学生総ピア・サポート体制」の構築を図るとともに、ピア・サポート活動を通して社会人基礎力を十分身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性をもった人材を養成することを目的とする。

#### 3 学生支援連絡協議会

- (1) 本プログラムを実施運営するにあたっての意思決定機関として、学生支援連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。
- (2) 協議会は次に掲げる者をもって構成する。
  - ア 学生センター所長
  - イ 学生センター副所長 1名
  - ウ 専任教員のうちから学長が指名する者 若干名
  - エ 学生サービス事務局長
  - オ 学事局（授業支援担当）次長
  - カ 入試事務局次長
  - キ 学生サービス事務局次長
  - ク 学長室（国際担当）次長
  - ケ キャリアセンター事務局次長
  - コ 学術情報事務局（図書館担当）次長
  - サ 学術情報事務局（IT 担当）次長
  - シ 学生生活支援グループ長
  - ス ボランティア活動支援グループ長
  - セ ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名
- (3) 第 2 号ア、イ及びエからスまでに規定する委員の任期は役職在任中とする。
- (4) 第 2 号ウに規定する委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- (5) 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (6) 協議会は、必要に応じて、前号に規定する委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。
- (7) 協議会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

## **【参考資料 2】**

### **4 議長及び副議長**

協議会の議長は、学生センター所長をもって充てる。副議長は議長の指名による。

### **5 設置**

第 2 項の目的を達成するための組織として「学生支援室」をボランティア活動支援グループ内に置く。

### **6 運営スタッフ**

学生支援室は次に掲げるスタッフにより運営する。

ア ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名

イ ティーチングアシスタント 若干名

### **7 事務**

この内規の改廃及び学生支援室に関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

#### **附 則**

この内規は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

#### **附 則**

この内規（改正）は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

#### **附 則**

この内規（改正）は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

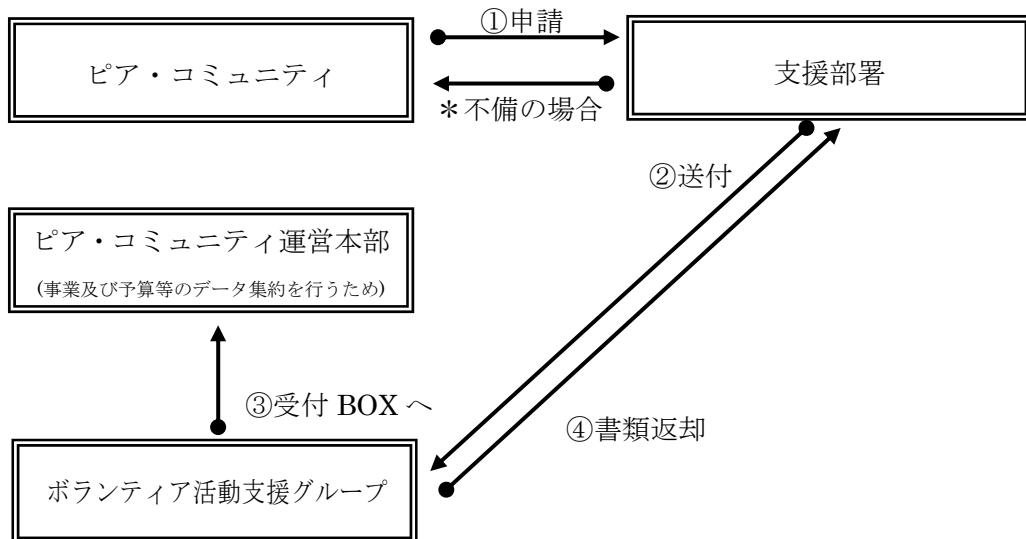
#### **附 則**

1 この内規（改正）は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2 この内規（改正）施行の際に第 3 項第 2 号ウにより選出される委員の任期は、同項第 4 号の規定にかかわらず平成 28 年 9 月 30 日までとする。

### 【参考資料 3】

● 【各種申請書類の手続きフロー】 ⇒①～④の順に書類を回覧する。



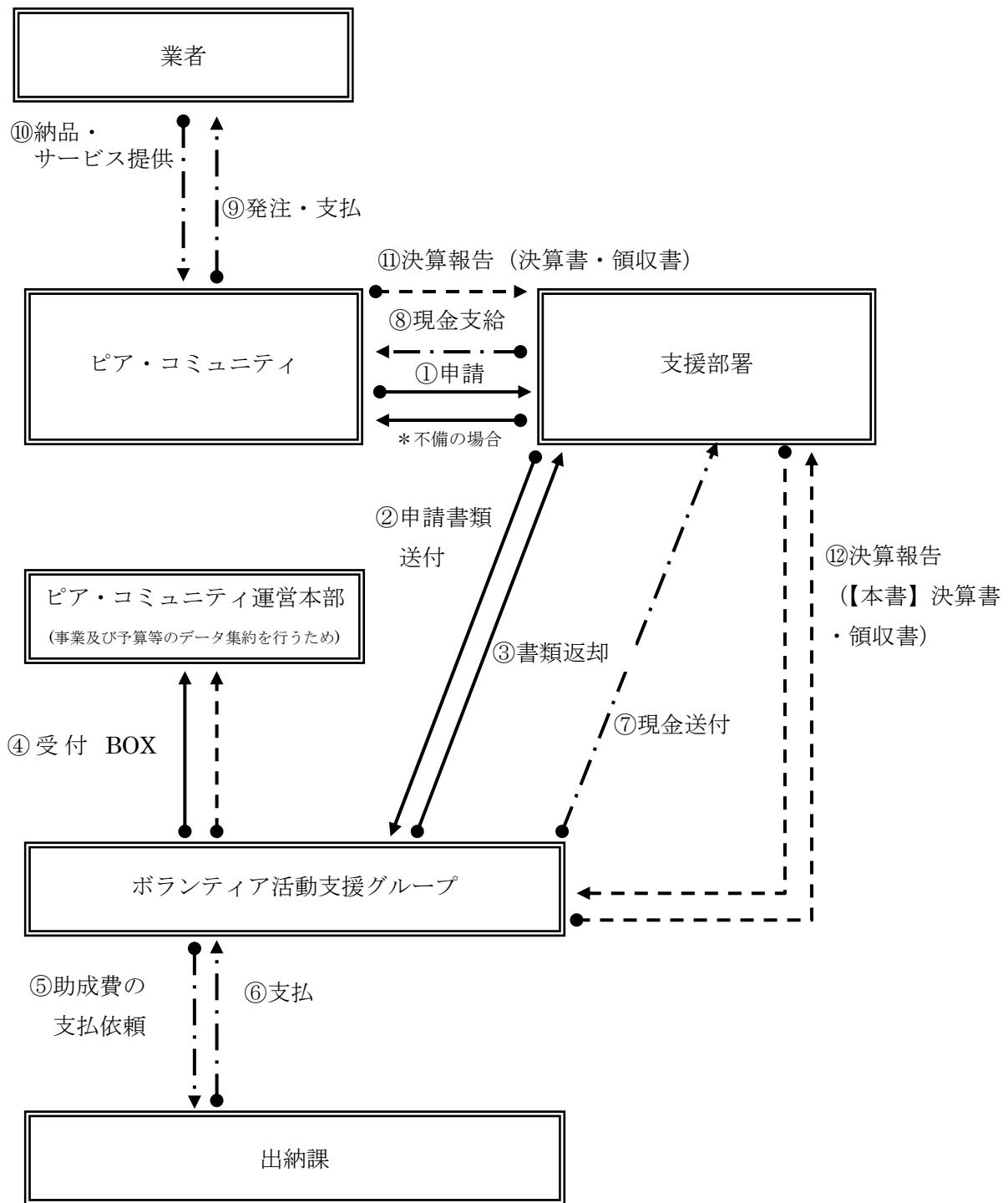
申請する事項		申請書類	提出期日 (ボランティア活動支援グループ)
— ピア・サポート活動を実施するにあたり —			
<b>【実施前】</b> ピア・サポート活動を具体的に進めるための申請書類(支援部署より実施を事前承諾された事業のみ)			
1	■ピア・サポート活動の目的や内容をまとめたもの ■参加予定のピア・サポート及び一般学生などの名簿 ◇経費が発生するピア・サポート活動の場合 ＊交通費は見積額を記入。 ＊講師を招聘する場合は謝金・交通費を記入。 ◇参加者から「参加費」を徴収する場合 ＊参加費には交通費・入場料・拝観料・お茶菓子等を含む。	事業計画書 参加者名簿 予算書 金銭収受を伴う行為の許可願	実施 2 週間前 ＊提出後変更があれば、その都度変更書類を提出する
2	■ピア・サポート活動の実施状況を報告する ◇経費が発生したピア・サポート活動の場合 ＊「予算書」を提出した場合には、必ず提出すること。 ◇支払った費用の領収書をまとめる ＊領収書の宛名は各ピア・コミュニティ名とすること。	事業報告書 ホームページ用原稿 決算書 領収書添付用紙	実施後 1 カ月以内 ＊領収書は、助成した金額以上の領収書を添付すること。また、本書を提出すること。
— ピア・コミュニティを運営するにあたり —			
3	次年度の年間行事計画とその予算を立てる	年間計画表	当該年度の1月31日まで
4	ピア・サポートの入退会、規約などの変更が生じた場合	ピア・コミュニティ届出事項変更届	その都度
5	研修生の登録、登録情報に変更が生じた場合	研修生登録申請書	その都度

#### 《注意事項》

- 上記のフローは、毎年見直しを行います。
- 2つ以上のピア・コミュニティで合同事業を行う場合には、申請手続きや経費負担割合等については、事前にご相談ください。
- 関西大学セミナーハウスを利用する場合や交通費の団体割引を利用する場合には、支援部署の教職員が帯同することが必要となりますので、学生センターまで事前にご相談ください。

### 【参考資料 3】

● 【経費が発生する場合の会計フロー】⇒⑤～⑩のとおり、必要備品が納品される。



ピア・サポート活動に伴って経費が発生する場合は、活動助成としてボランティア活動支援グループからピア・コミュニティに対して、助成費の支出（原則 1000 円単位）を行います。

#### 《注意事項》

上記のフローは、毎年見直しを行います。

#### 《金銭に伴う取り決め》

ピア・コミュニティ内における会費（部費）を徴収する場合は、独自に会則を設け管理してください。

参加者から徴収した「参加費」に余剰金が生じた場合は、原則、即日清算を行い返金してください。

また、徴収した「参加費」の管理は、支援部署と調整の上、厳重に管理してください。

【参考資料4】

2018年度学生支援連絡協議会 委員名簿			
	資 格	氏 名	任 期
ア	学生センター所長	岡本 哲和	役職在任中
イ	学生センター副所長	松村 吉信	役職在任中
ウ	専任教育職員のうちから学長が指名する者	多賀 太	~2020.9.30
エ	学生サービス事務局長	村上 隆志	役職在任中
オ	学事局（授業支援担当）次長	荻原 恒夫	役職在任中
カ	入試事務局次長	井村 誠	役職在任中
キ	学生サービス事務局次長	鈴木 啓祐	役職在任中
ク	学長室（国際担当）次長	松川 健志	役職在任中
ケ	キャリアセンター事務局次長	荒堀 善文	役職在任中
コ	学術情報事務局（図書館担当）次長	久保田 真也	役職在任中
サ	学術情報事務局（IT担当）次長	柿本 昌範	役職在任中
シ	学生生活支援グループ長	奈須 秀治	役職在任中
ス	ボランティア活動支援グループ長	堀 律子	役職在任中
セ	ボランティア活動支援グループ事務担当者	小川 隆行	
		村上 翔也	
		山本 未希	

## 【参考資料 5】

ピア・コミュニティ担当者一覧表(2018 年度)

部 署	担当者
学生相談・支援センター事務グループ	宮辺
入試広報グループ	岩崎・難波江
国際教育グループ	長谷川・安藤(～9月)・幸村(10月～)
情報推進グループ	村田
情報基盤グループ	加勢田
図書館事務室	古林・西本
広報課	西川
スポーツ振興グループ	藤原
保健管理センター事務室	築谷
学生活動支援グループ	辻・村上・中谷
ボランティア活動支援グループ	小川・山本

2018 年度 TA による支援体制

コミュニティ名	主担者	副担者
ピア・コミュニティ運営本部	佐藤	保田
国際コミュニティ“KUブリッジ”	保田	
ピア・スポーツコミュニティ		
KUコアラ	竹本	木村
KUサポートプランナー	佐藤	
ぴあかんず		
KUサポーターズ	宮原	並木・木村
i. com		
関西大学学生 PR チーム SUGaO		

関西大学ピア・コミュニティ 2018 年度報告書

発 行 : 2019 年 8 月

発行者 : 関西大学

編集者 : 関西大学学生センター ボランティア活動支援グループ

住 所 : 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

電 話 : 06-6368-1229

U R L : <http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp>

印 刷 : 大都印刷株式会社